もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

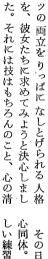
私の言葉

初心不忘！

田村正衞
（田村紡績社長 三重県協会会長）

私がハンドボールに関係したのは、ここ一、二年のことです。まだ日も浅く、また機会もなかったとはいえ、先輩諸兄にごあいさつしていないことを深くおわびいたします。昨年12月の第11回全日本総合室内選手権大会で私の会社のチームが、どこをどう間違ったか、思いもかけない優勝を握ってしまいました。〃田村紡旋風〃とか、〃黒い旋風〃、〃ハンドボールの魔女〃などと言われ、私自身大いにびっくりしたのです。そこで私になにか書けとのご注文。私はまだハンドボールのことはよく知りませんので、チーム結成のいきさつを書いてその責を果たしたいと思います。

三年ほど前のことでした。三重県の田舎にハンドボールの強い中学チームがあると聞きました。そして全員が就職を希望し、「できれば同一職場でハンドボールを続けたい」との話でした。「それじゃ私どもの会社で引き受けましょう」ということに決まったのです。彼女たちのハンドボールに注ぐ情熱を力の限り伸ばさせてやろうと考えたのがチーム結成の動機です。私はつねにスポーツによる人間形成を理想に考えています。そこでこれを機会に仕事とスポーツの両立をりっぱになしとげられる人格を、彼女たちに求めてみようと決心しました。それには技はもちろんのこと、心の清い指導者をさがさなければなりません。ところが私にとって全く幸運にも、その理想の指導者が見つかったのです。それは名古屋工業大学の宇津野年一先生でした。先生は私の話しを聞いて「ではやってみましょう」と心よく指導を引き受けくださいました。

その日から雨の日も風の日も彼女らと一心同体。「いっしょにやりましょう」と激しい練習と人間づくりへの精進が始まったのです。練習は所定の就業時間を終えた夕方四時からです。良き伯楽を得た若駒たちは疲れも知らず、連日の猛練習に嬉々としてその情熱と力を打込んでいるのです。私は「これならいつか必ず彼女らの夢も実り、先生へのご恩返しもできるであろう」と心ひそかに思っていました。それがこうも早く実現できたとは……。きっとなにか大きな間違いがあったのだと私は思います。そこで私はもういちど彼女たちに言ってやりました。「初心不忘」と。

ハンドボール「第20号目次」

私の言葉「初心不忘！」………田村正衞…(1)

—第11回全日本総合室内選手権大会—

全立大に初の栄冠 女子は新進の田村紡………………(2)

◇総評◇ 決勝リーグ制度は成功 …………深美成男…(5)

—第5回全日本実業団選手権大会—

大崎電気が男女優勝…………………(6)

◇総評◇ すばらしかった大崎電気 …………村田 弘…(8)

1964年度を顧みて……………若崎重富…(10)

日本協会だより

40年度日程など決まる…………………(12)

優秀選手を表彰………………………(13)

競技規則改正の要点………岡村昭二…(14)

東西で競技規則改正講習会………………(15)

□楽書帳□ 飛車角なしで快勝……………(16)

◇時評◇ 難産した実業団連盟…………(16)

海外ジャーナル

西ドイツ・・・競技人口は世界一………(18)

フランス・・・30年で世界征服…………(20)

海外スコープ

カナダが欧州遠征………………………(21)

新連載・球界パトロール

東京・・低迷続ける名門早慶明…………(22)

熊本・・男女混合でプレーを……………(23)

39年の10大ニュース……………………(24)

☆連載☆

ハンドボール球史（第11回）……………(26)

——関東学生リーグ・最終回——

地方球界の歩み（第7回）………………(28)

——埼玉県の巻・岐阜県の巻——………(30)

東京都協会告知板…………………………(31)

編集後記……………………………………(32)

表紙写真——全日本総合室内選手権大会から 全立大・中根選手のシュート

前回19号の表紙説明は全日本総合選手権大会女子の愛知紡—田村紡の写真でした。おわびします。

全立大に初の栄冠
女子は新進の田村紡に

第11回全日本総合室内選手権大会は昨年12月16日から20日までの5日間、東京体育館（第1日のみ駒沢体育館を使用）で行なわれた。今回から大会方式が大きく変わり、男女とも参加チームは日本協会および地方協会の推薦を受けたものに限られた。男子はフル・エントリーの16チーム、女子は13チームが出場、それぞれ4組に分けて予選トーナメントを行ない、その勝者によって決勝リーグが争われた。男子は全立大（協会推薦・東京）が、女子は予想を完全にくつがえして田村紡（三重）がシードチームを総なめにし、ともに初優勝を飾った。

◇男子予選トーナメント一回戦

▽A組

大崎電気（埼玉）33（20－6 13－2）8 早大（東京）

▽B組

法大（東京）26（12－4 14－8）12 日本鋼管（神奈川）

同大（京都）16（9－8 7－7）15 GTC（岐阜）

関学（兵庫）33（21－8 12－2）10 東北学院大OB（宮城）

▽C組

日体大ク（東京）25（13－7 12－6）13 清商ク（静岡）

芝工大（東京）25（9－5 16－3）8 明星高（東京）

△D組

教大（東京）23（11－9 12－12）21 スワロー兵庫（兵庫）

全立大（東京）34（21－10 13－7）17 宗形製作（大阪）

◇予選トーナメント決勝

▽A組

大崎電気 33（20－4 13－4）8 法大

〔評〕大崎の圧勝。法大は秋の関東学生で2位になるなどのぼり坂のチームだが、攻撃内容にとぼしく、フォーメーションも単調だった。大崎は最初から慎重にディフェンスを固め、攻撃機をつかむと一気にラッシュして得点を重ねた。（松本主審）

▽B組

同大 19（9－8 10－7）15 関学

〔評〕力とスピードにあふれた好試合。しかし若さがすぎて粗暴なプレーが見られたのは遺憾だ。関学の攻撃がやや単調に流れたのに対し、同大はボールをオープンに回し、サイドと中央からミドル、ポストを使い分けるなど多彩な攻撃で勝った。（岡村主審）

▽C組

日体大ク 19（9－11 10－7）18 芝浦工大

〔評〕日体クはテンポのおそい試合運びで若い芝浦工大を誘いこみ、巧みにリードを奪った。芝浦工大は後半相手の疲れに乗じ速攻から1点差まで追いつめたが、終了前の7MTを落として惜敗。日体クの老巧さが目だった一戦。（佐野主審）

▽D組

全立大 20（6－7 14－3）10 教大

〔評〕立教は前半早いパスとスピーディな展開で教大陣を割り、22分までに11－1とした。後半は教大の反撃にもあわてず、ダブルスコアで押し切った。しかし余裕があったとはいえ、後半の全立大の攻防は物たりなかった。（徳永主審）

◇女子予選トーナメント一回戦

▽A組

田村紡（三重）16（8－0 8－0）0 日本女子体育短大（東京）

▽B組

栃木女高（栃木）10（5－5 5－0）5 東京重機（神奈川）

大洋デパート（熊本）20（13－2 7－1）3 東京女子体育大（東京）

▽C組

ロンド工業（茨城）11（7－5 4－2）7 日体大（東京）

▽D組

揖斐川電気（岐阜）8（4－3 4－3）6 吉原高（静岡）

〔評〕比較的おもしろかったのは揖斐川－吉原高戦。後半10分6

—4とリードされた揖斐川は、このあと猛反撃に転じ、11分渡辺のゲッで1点差とした。さらに13分、14分、18分とエース赤塚が3点連取してあざやかに逆転した。その他では田村紡が完ぺきなチームプレーでシャット・アウト・ゲームを記録。ロンド工業は老巧な試合運びで日体大を制した。

◇予選トーナメント決勝

▽A組

田村紡 8（4—3／4—3）6 大崎電気（埼玉）

〔評〕大番狂わせ。田村紡の勝因は動きとパスワークのよさにあった。大崎は横の動きと横パスが多く、シュートチャンスをつかむことができなかった。大崎は後半11分深津の7MTで5—5といちどはタイにしたものの、そのあと田村紡は再び早い動きから種村、水谷が好シュートを決めて見事この強敵を退けた。ラッキーな得点もあったが、この試合に限っては、すべての面で田村紡が大崎を圧していた。（狩野主審）

▽B組

大洋デパート 7（4—2／3—1）3 栃木女高

〔評〕高校、実業団の差をはっきり示した一戦。技術、駆け引きとも大洋に一日の長があり、若手の成長からチーム自体に迫力も出てきた。栃木女高（全国高校優勝）もまとまりのある好チームだが、田辺にたよりすぎていた。（稲石主審）

▽C組

レナウン（東京）13（3—4／10—2）6 ロンド工業

〔評〕レナウンは前半低調。ロンドはそのすきをついて鈴木らの活躍でリードした。しかしレナウンは後半ようやく持ち前の多彩な攻撃を見せ、1分渡辺のゲットを皮切りに連続5点をあげて勝った。（宮本主審）

▽D組

愛知紡（愛知）17（5—0／12—0）0 揖斐川電気

〔評〕愛知紡は古谷の連続ゲットで先制。その後は関口の7得点をはじめ全員がよく走り一方的に試合を進めた。（沢野主審）

◇男子決勝リーグ第一日

大崎電気（埼玉）28（13—3／15—6）9 同大（京都）

▽レフェリー（日体大出）

得	【大崎】		【同大】	得
0	福本	GK	奥本	0
5	宮原藤	FP	鳥井	2
5	北村		石井	0
1	小谷内		川井	0
7	井上		斎藤	2
9	竹野		飯田	2
0	金田		佐藤	1
0	田口		影山	2
1	宮原宏		稲葉	0
0	坂野		江村	0
28	(4)	7MT	(0)	9

▽反則退場者川井

〔評〕大崎電気が得意の速攻で同大に大勝した。大崎のメンバーはほとんどが第五回世界選手権出場者で、オフェンスもディフェンスも申しぶんなかった。フェイントをかけて同大ディフェンスをゆさぶり、ちょっとのすきも見のがさないで攻め込んだ。GK福本のボール出しもよく、両サイドから走り込んで得点に結びつけた。この試合で大崎の竹野が前半終了間ぎわに自陣のフリースローラインから同大ゴールをねらって40メートルのロングシュートを決めたプレーは実に見事だった。同大GKがカ前に出すぎていたのをみた竹野のンのよさはほめていい。同大GKはあわててバックし、ジャンプしたがおよばなかった。同大は大崎のスピードについていけなかった。（鴛尾）

全立大（東京）23（8—8／15—7）15 日体大ク（東京）

▽レフェリー佐野（教大出）

得	【全立大】		【日体大】	得
0	尾形	GK	高橋	0
4	江名	FP	東	1
0	斎藤		石原	0
3	中根		青木	1
8	安達		小林	1
2	松本		蓮井	0
4	木野		藤原	5
2	高久保		三友	1
			沢田	1
			井上	5
23	(1)	7MT	(2)	15

▽反則退場者　ナシ

〔評〕全立大は、後半15分に12—14と2点リードされてから速攻に切り替えたのが成功した。安達、木野、中根らがロングを飛ばして連続9点をあげ、21—14と日体大クを引き離した。それまでは1点を争う試合だったが、最後は全立大の若さがものをいった。日体大クは練習量がたらず、後半息切れして走なかった。（鴛尾）

▽女子決勝リーグ第一日

田村紡（三重）6（4—1／2—3）4 大洋デパート（熊本）

▽レフェリー狩野（日体大出）

得	【田村紡】		【大洋】	得
0	渡辺美智	GK	山口	0
2	種村	FP	新保	2
0	川口		高山	0
2	渡辺美津		中村	0
0	渡辺好		千原	0
1	水谷		西村	0
0	清水		久連松	2
0	内藤		枝尾	0
1	小林		隈	0
			射場	0
6	(3)	7MT	(1)	4

竹野（大崎電気）左サイドからジャンプシュート、（対全立大戦）

〔評〕 若い田村紡は前日の予選ブロック決勝でことし夏の全日本総合（屋外）で優勝した大崎電気を破ってすっかり自信をつけてしまった。この日もすばらしい速攻で大洋デパートを寄せつけず〃田村紡旋風〃をまき起こした。こんなとはだれも予想しなかったことだ。中学出で固めたとはいえ、コート全部を使った鋭い攻撃、男まさりの〃走り〃には驚いた。ひょっとしたら優勝するかもしれない。（鴛尾）

愛知紡（愛知）4（2−2、2−1）3 レナウン工業（東京）
▽レフェリー 岡村（教大出）

得	【愛知紡】		【レナウン】	得
0	篠崎	GK	柿沼	0
		GK	山田	0
1	塚原	FP	渡辺	2
2	小林	FP	太田	0
0	関口	FP	風岡	0
1	古谷	FP	竹本	1
0	横倉	FP	林	0
0	竹市	FP	川上	0
0	柴田	FP	新山	0
		FP	玉山	0
4	(0)	7MT	(1)	3

▽反則退場者 古谷

〔評〕 名門愛知紡が逃げ切りに成功した。レナウンの不調に助けられたといっていい。レナウンは大崎電気とともに優勝候補にあげられていたチーム。ところが主力の太田が試合中に左ヒザをねんざして退場、さらに7メートルスローの名人といわれた竹本が7メートルを三本も失敗して1点差に泣いた。女子チームはいくら強いといっても試合をやってみなければわからないものだ。（鴛尾）

◇男子決勝リーグ第二日

全立大（東京）21（11−5、10−8）13 同大（京都）
▽レフェリー 稲石（日体大出）

得	【同大】		【全立大】	得
0	奥本	GK	尾形	0
5	鳥井	FP	斎藤	0
0	川井	FP	中根	2
0	斎藤	FP	安達	5
5	飯田	FP	松本	3
1	佐藤	FP	木野	4
1	影山	FP	高久保	0
1	稲葉	FP	江名	7
13	(0)	7MT	(2)	21

▽反則退場者 飯田、川井

〔評〕 全立大の勝利は順当だが、現役の江名のプレーはよかった。小さなフェイントをかけて中央をうまく割ったり、ロングをとばして得点をあげた。若さ、スピードは大したもの。木野も一年生ながら強肩の持ち主。そのロングはスピードがあっていい。同大もよくやった。鳥井、飯田が全立大のディフェンスをゆさぶりながらロングを決めていた。プレーが荒かったが、このていどは仕方あるまい。（鴛尾）

大崎電気（埼玉）15（10−6、5−7）13 日体大クラブ（東京）
▽レフェリー 佐野（教大出）

得	【日体大】		【大崎】	得
0	高橋	GK	福本	0
2	東	FP	田口	0
0	石原	FP	宮原藤	2
4	青木	FP	北村	2
3	小林	FP	井上	3
0	蓮井	FP	竹野	6
1	藤原	FP	金田	2
1	三友	FP	宮原宏	0
2	沢田	FP		
0	井上	FP		
13	(1)	7MT	(0)	15

▽則退場者 井上（大崎）

▽女子決勝リーグ第二日

田村紡（三重）3（2−0、1−2）2 愛知紡（愛知）
▽レフェリー 岡村（教大出）

得	【田村紡】		【愛知紡】	得
0	渡辺美智	GK	篠崎	0
0	川口	FP	塚原	0
2	種村	FP	小林	0
0	水谷	FP	関口	2
0	小林	FP	古谷	0
1	内藤	FP	横倉	0
0	渡辺好	FP	竹市	0
0	清水	FP		
0	渡辺美津	FP		
3	(0)	7MT	(0)	2

レナウン工業（東京）6（2−2、4−3）5 大洋デパート（熊本）
▽レフェリー 松本（教大出）

得	【大洋】		【レナウン】	得
0	山口	GK	柿沼	0
		GK	山田	0
2	新保	FP	渡辺	3
0	高山	FP	風岡	1
0	中村	FP	竹本	0
0	千原	FP	林	0
3	久連松	FP	川上	2
0	西村	FP	新山	0
0	枝尾	FP	玉山	0
0	隈	FP		
5	(2)	7MT	(2)	6

▷ 反則退場者なし

決勝リーグ制度は成功

総評

深美成男（日本協会強化委員）

体力絶頂期の全立大

この大会から上位4チームの決勝リーグとなり、出場チームも男子16、女子13チームにしぼった。

まず男子の方から見ると、オフェンス面では優勝の全立大は①身長の大きい者が多い②各プレーヤーの持ち味がバラエティに富んでいる③作戦の種類が豊富④体力的に各プレーヤーが絶頂期の年代——などの有利な面をじゅうぶん発揮し、相手にまどわされることなく、自己のペースで冷静に試合を進めた。またいつでも得点できるという自信からくる落ち着きが、ディフェンスにも好影響を及ぼし、優勝チームとしてまことにふさわしい試合ぶりであった。大崎電気は全立大よりも優秀なベテランをそろえながら若手との差がみられ、バランスがとれない試合運びに終わってしまった。攻撃が単調で種類が少ないことが優勝できなかった最大の原因になった。経験豊富なプレーヤーが多いので今後の奮起が望まれる。

日体大クラブは大崎電気と同様にベテランぞろいのため個々のプレーに卓越したものが多く見られたが、全体としての迫力に物たりなさがあった。やはり地方のOBの集まりでじゅうぶん練習ができなかった結果であろう。攻撃も単調すぎた。同志社大は現役単独の唯一の大学チームとして決勝リーグに進出。前記3チームに伍して善戦したが、全体的に連係のない個人プレーに走りすぎた。もっとセットオフェンスのフォーメーションを考えることが課題である。

↑男子優勝の全立大チーム

◇男子決勝リーグ最終日

同大（京都）22（8—8、14—9）17 日体大ク（東京）

▽レフェリー　佐野（教大出）

【同大】	得		【日体大ク】	得
奥本	0	GK	高橋	0
川井	1	FP	井上	2
斎藤	3	FP	石原	0
飯田	6	FP	青木	6
佐藤	2	FP	小林	3
影山	4	FP	山口	1
稲葉	0	FP	藤原	3
鳥井	6	FP	沢田	2
22	(2)	7MT	(1)	17

全立大（東京）21（8—7、13—9）16 大崎電気（埼玉）

▽レフェリー　岡村（教大出）

【全立大】	得		【大崎】	得
尾形	0	GK	福本	0
江名	11	FP	田口	0
斎藤	0	FP	宮原藤	0
中根	3	FP	北村	1
安達	3	FP	小谷内	1
松本	0	FP	井上	2
木野	4	FP	竹野	5
		FP	金田	5
		FP	宮原宏	2
21	(4)	7MT	(3)	16

〔評〕全立大はよく走り、そしてよく打った。安達、江名、木野のロングヒッター3人をそろえていたのはなによりの強み。さすがの大崎も手が出なかった。エリアの外からのロングは防ぎようもない。夏の全日本総合（屋外）決勝で逆転負けしている全立大は、〝打倒大崎電気〟を目ざして大会

レナウン東京対田村紡、種村のシュートを柿沼とめる

マン・ツー・マンの強化

ディフェンス面では全般的に1—5とか、2—4とかの型にはめすぎる傾向にあった。ゴールを守ることはもちろんであるが、パスをつぶすとか、カットをねらうなどのもっと積極的なディフェンスがこれからは要求されるのではなかろうか。それにはマン・ツー・マンをもっと強くすることが重要である。個人プレーに自信を持つことがゾーンに展開してもこなせるようになる。さらにオフェンスの面にも技術の向上ということでつながってくる。特に中学・高校生においてはなおさらのこと、ディフェンス面の重要な課題はマン・ツー・マンの強化が先決である。

ゴールキーパーについては、決勝リーグの各チームのキーパーは他のチームよりすぐれた力を発揮した。これは当然のことだが、ディフェンスとのコンビネーションが不足しているように見受けられた。大崎電気、日体大クラブが比較的コンビがとれ、全立大のボール出しの早さがゴールキーパー面でのマイナスを補ってくれた。

結論としてオフェンスの面では速攻はもちろん必要であるが、セットオフェンスの不足が目だちこの強化が望まれる。ディフェンス面では積極的にやるということ。そのためにはマン・ツー・マンの自信をつけることが第一ではなかろうか。

持ち味生かした田村

女子の方をみると、夏の総合ではディフェンスの強さが目だったが、この大会ではオフェンスの強さが目だった。特にコートを大きく使ったセットオフェンス、これをじゅうぶん生かした田村紡が優勝に結びついた。ことにこのチームは個人プレーでは他のチームに比べ見劣りしたが、そういうプレーヤーの個々の持ち味をうまく生かしたチームプレーが他よりすぐれたことが最大の勝因であろう。大崎電気は充実したプレーヤーがそろいながらシュートを忘れ、ローリングにはやりすぎた感じ。チームプレーに徹するあまり個人プレーが殺されていた。レナウン東京は負傷欠場者がいたにもかかわらずセットプレーが鋭角的に行なわれ、攻撃面では他を圧した。本来の力が出せたら、あるいは……というところであった。

ディフェンスの面では男子に比べてフットワークが伴わず、手を使った荒いディフェンスが目だったのが残念だった。結論として女子の場合は、個人プレーにすぐれた者の持ち味を生かしたプレー、作戦を主体にした方がよかったと思う。

最後に決勝リーグの制度にしたのは成功だった。フロックでは優勝できないシステムになったことは、ハンドボール界にとっては画期的なことであった。この方法にたいしていろいろな批判がでるかもしれない。また別の方法になるかもしれない。いずれにしても内容充実の試合が多かったことは、将来に対して大きな希望が出た。（了）

◇—◇—◇

◇—◇—◇

↑女子優勝の田村紡チーム

東京新聞に掲載された

田　村　紡　チ　ー　ム

田村紡　栄光へのみち

男まさりの攻撃

わずか二年半で"夢"実現

みんな泣いていた。―川口清子主将らメンバー七人、ベンチで見守っていた小川部長、鈴木監督、宇津野コーチも「よくやった」というより先に泣いた。部結成いらいわずか二年半、驚異的な田村紡の優勝だった。

さる三十七年春、「ハンドボールのすごい強い中学がある。そのメンバーは就職すると競技生活をやめるかも知れない」こんなことを聞いた田村紡は、すぐ全員の就職を引き受け、同時に部をつくった。今大会で活躍した渡辺好子さん、種村好子さん、水谷秀子さん、GK渡辺美智子さんら、成章中（三重県員弁郡）卒業の七人がそのときのメンバーである。昨年春主将の川口清子さん、内藤志津子さんを稲沢高から補強、グラウンドにライトもつけ、きびしい夜間練習を始めた。

走ることとフォーメーション、オールラウンドプレーの練習だ。一日五キロも走った。「寮の寝床で体中の痛さに泣いた。毎晩のようにやめようかと思った」と川口さんらは口々にいう。宇津野コーチに「このボールが取れないから負けるのだ」といわれてボールをぶつけられたことも数えきれない。いわば毎日が"ニチボー式"の訓練だった。

ことし春、東海地区選手権大会で愛知紡を8−5と降して初優勝。夏の全日本総合で、この愛知紡に準々決勝で敗れると、ふたたび"日本一"をめざしての苦しい練習がはじまった。こんどの大会では、東京に着いた翌十六日から朝、夜の二回、ディフェンスの練習、作戦のミーティングを四十分ずつやって試合に備えた。

その結果、予選二回戦で強豪大崎電気を8−6で破った。決勝リーグ戦中も練習どおり、きたえた足で走った。「一人のポイントゲッターを作らず、全員がシュートできるチームだ。守りもピストン式で相手の攻撃をつぶすという男まさり。来年の女子世界選手権にはきっとこの中から代表が出るだろう」協会関係者たちはいう。「社長にはじめて恩返しができた」鈴木監督も宇津野コーチも、涙声だった。

女子ハンドボール"日本一"になった田村紡チーム＝東京体育館で

の二ヵ月前からOBの安達、中根を加えて強化合宿し、これが実を結んだわけ。

前半は接戦だったが、後半になると全立大は速攻をかけて16−11とリードした。このあと大崎が反撃していちじは17−15と2点差につめたが、また引き離された。大崎は立ち上がりから動きが悪く、しかもエース竹野のパスミスが多かった。これが全立大の得点に結びついてしまったのは皮肉。（鴛尾）

決勝リーグ成績

【男子】	立	大	同	日	勝	敗	分	得	失
全立大	×	○	○	○	3	0	0	65	44
大崎電気	●	×	○	○	2	1	0	59	43
同大	●	●	×	○	1	2	0	44	66
日体大ク	●	●	●	×	0	3	0	45	60

【女子】	田	大	愛	レ	勝	敗	分	得	失
田村紡	×	○	○	○	3	0	0	22	14
大洋デパ	●	×	○	●	1	2	0	19	19
愛知紡	●	●	×	○	1	2	0	13	16
レナウン	●	○	●	×	1	2	0	17	22

注＝女子は得点率による。大洋5.00愛知紡4.48レナウン4.35

◇女子決勝リーグ最終日

大洋デパート（熊本）10（5−2、5−5）7 愛知紡（愛知）

▽レフェリー　徳永（日体大出）

得	【大洋】		【愛知紡】	得
0	山口	GK	篠崎	0
2	新保	FP	塚原	1
0	高山	FP	小林	3
1	中村	FP	関口	2
0	千原	FP	古谷	1
3	西村	FP	横倉	0
2	久松	FP	竹市	0
1	連隈	FP		
1	今村	FP		
10	(1)	7MT	(0)	7

田村紡（三重）13（5−3、8−5）8 レナウン（東京）

▽レフェリー　松本（教大出）

得	【田村紡】		【レナウン】	得
0	渡辺美智	GK	柿沼	0
		GK	山田	0
4	種村	FP	渡辺	2
1	川口	FP	風岡	5
2	水谷	FP	竹本	0
3	小林	FP	林	1
0	内藤	FP	川上	0
3	渡辺好	FP	新山	0
0	清水	FP	玉山	0
13	(0)	7MT	(1)	8

〔評〕田村紡の優勝は見事だった。この日もレナウン（新潟国体優勝チーム）を押え、この大会のシード4チームを全部破ってしまった。だれひとりとして田村紡が優勝するとは思っていなかっただけに驚きである。選手の大半が中学時代に陸上短距離の選手だった。若さもあって思うぞんぶん走りまくった。

レナウンの厚いディフェンスをゆさぶっておいて、エリアの外からロングをとばし、あるいはコート全部を使う作戦に出た。ゴール前で相手をひっかけて強引にとび込み、ルーズボールもほとんど取って攻めた。ボールに対する執着心の強さは大したもの。（鴛尾）

大崎電気、夏に次いで男女優勝

第５回全日本実業団選手権大会は２月４日から４日間、大阪府立体育会館（第1、2日は大阪市立中央体育館併用）に男子26、女子９チームが参加して開かれた。男子はトーナメント、女子は予選、決勝ともリーグ戦。男子は大崎電気（東京）が5年連続優勝した。女子は予選リーグでレナウン工業東京（前回および国体優勝）、田村紡（三重・全日本総合室内優勝）が敗退する波乱があり、結局は大崎電気が初優勝。昨夏の全日本総合につづき、２度目の男女優勝という偉業をなしとげた。

第５回全日本実業団選手権大会

波乱に富んだ女子

▽女子予選リーグA組

熊亀ク（熊本）8（4—1、4—4）5 レナウン工業（東京）

田村紡（三重）5（3—1、2—2）3 熊亀ク

レナウン工業 7（5—2、2—3）5 田村紡

〔評〕熊亀（ゆうき）クは大洋デパートの二軍チーム。クジ運の悪いブロックにはいったが、強敵レナウンを破った。立ち上がり4分枝尾のロングシュートがラッキーな得点となって気勢をあげ、9分7MTで同点とされたものの、14分稲田、16分立山、19分射場と3点をあげて点差を開いた。リードされたレナウンはあせりが出て無理なシュートを打ち、自ら苦戦した。終盤の追い込みも前半の失地を回復するまでには至らなかった。熊亀は田村紡戦にも互角に試合を進めた。しかし田村は前半、種村が鋭い切り込みから全得点をたたき出す活躍があり、その優位を後半どうにか保って辛勝した。（星井主審）

レナウン—田村紡はレナウンがベテラン山田を加えぬとメンバーを編成できない（太田欠場、竹本、川上、玉山退部）ハンディがあった。だれが見てものぼり坂の田村紡に分ある一戦だった。しかし山田が実にうまく守備陣をまとめ、前半14分には20メートル近い独走から得点する活躍、さらに風岡の好技もあって前回優勝の面目と意地のあるところを見せたのは見事だった。田村紡は動きに精彩がなく、特に一気に走り込まれたときのディフェンスが甘かった。攻めてもハンドリングが乱れ、この日は一つもよいところがなかった。この結果、三すくみとなり、得点率のよい熊亀クが決勝に進んだ。（杉山）

▽女子予選リーグB組

大崎電気（東京）7（4—1、3—1）2 揖斐川電工（岐阜）

愛知紡（愛知）7（3—1、4—0）1 揖斐川電工

大崎電気 7（4—1、3—2）3 愛知紡

〔評〕大崎は決してよい出来ではなかったが、愛知紡の貧攻はそれに輪をかけていた。前半6分、小林（とめ）のゲットが唯一の得点。あとは古谷の7MT2点だけというのでは、往年の愛知紡を知る者にとってはなんとも寂しい。大崎は2—1から前半13分黒川のシュートがポストに当たりながらGKの自殺点を呼ぶなど幸運もあって、前半で主導権を握り、押し切った。（杉山）

▽女子予選リーグC組

大洋デパート（熊本）15（7—2、8—2）4 東京重機（東京）

東京重機 15（10—3、5—3）6 レナウン工業大阪（大阪）

大洋デパート 19（10—0、9—1）1 レナウン大阪

〔評〕特筆すべき内容の試合はなく、大洋のトレーニングゲームになってしまった。レナウン大阪は前回愛知紡を破ったような気力もなく、東京重機も攻守に未だしの感があった（杉山）

◇女子決勝リーグ

大洋デパート 12（7—0、5—4）4 熊亀ク

▽レフェリー 星井（日体大出）

得	【大洋】		【熊亀】	得
0	山口	GK	小原	0
4	新保	FP	今村	0
1	高山		枝尾	0
0	中村		稲田	1
2	千原		射場	2
3	西村		鐘ケ江	1
2	久松		迫	0
0	連隈		立山	0
12	(1)	7MT	(0)	4

〔評〕姉妹チームの対戦とあって興味半減。一軍の大洋が貫録を示して前半で勝負を決めた。敗れたとはいえ熊亀クの今大会での活躍は特筆してよい（星井主審）

大崎電気 9（6—4、3—1）5 大洋デパート

▽レフェリー 岡本（日体大出）

〔評〕スピードの差がスコアとなって現われた。大崎は年末年始の休暇を返上して強化合宿し、この大会に備えた。これが見事に実ったもの。速攻は申しぶんなく、それに帰陣が早くなった。このスピードに大洋がついて行けない。大崎が幅広い攻撃を見せたのに対し、大洋は実に単調で、これといった決め手がなかった。試合は前半1分大崎の早川が中央からジャンプシュートして先取点をあげた。早川は右腕が完全になおり、この試合で4点をたたき出した。大崎らしい攻撃を見せたのは前半15分30秒から17分までの間に田村のロング、宇井のノーマークシュート、黒川の倒れ込みシュートと攻めたときだ。これで得点は6—3となり、大崎が主導権を握った。大洋は新保を中心になんとかバン回をはかったが、攻撃力にとぼしかった。千原はよく動いて大崎ディフェンスをくずそうとしたが、だめだった。（鴛尾）

得	【大洋】		【大崎】	得
0	山口	GK	古谷	0
2	新保	FP	田村	2
0	高山		宇井	1
1	中村		鈴木	1
0	千原		永井	0
0	西村		深津	0
1	久松		黒川	1
1	連隈		早川	4
5	(0)	7MT	(0)	9

大崎電気 9（3—0、6—2）2 熊亀ク

▽レフェリー 東（日体大出）

〔評〕熊亀クが自ら優勝するには14点差以上が必要で、同門の大洋を優勝させるには2点差以上つけて勝たねばならない。やはり総

得	【大崎】		【熊亀】	得
0	古谷	GK	小原	0
0	川崎			
2	田村	FP	今村	1
0	宇井		枝尾	1
0	斎藤		稲田	0
1	鈴木		射場	0
4	永井		鐘ヶ江	0
0	深津		迫	0
0	黒川		立山	0
2	早川			
9	(0)	7MT	(0)	2

合力で大崎に一歩も二歩もゆずり、善戦むなしく敗れた。大崎は前半優位に立って落ち着き、後半は永井を中心によく走り、危なげなかった。（東主審）

宗形、試合運びにうまさ

▽男子一回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
丸善石油（和歌山）	30	16－5	14－9	14	金沢市役所（石川）
タヨシ産業（愛知）	13	5－5	8－7	12	美津濃（大阪）
三井石油（山口）	20	13－9	7－7	16	川崎車輛（兵庫）
自衛隊32普通科連隊（東京）	21	12－10	9－8	18	京都市役所（京都）
自衛隊勝田（茨城）	22	11－6	11－6	12	全京都信用金庫
安田生命（東京）	16	6－8	10－5	13	盛岡市役所（岩手）
原子力研究所（茨城）	23	15－5	8－4	9	日東電工（大阪）
三菱レ大竹（広島）	24	9－5	15－10	15	日本合成ゴム（三重）
三菱重工（愛知）	32	15－9	17－4	13	日新製鋼呉（広島）

〔評〕三井石油化学―川崎車輛は、17―13とリードされた川崎が後半追い上げて17―16まで縮めた。しかしそのあと三井はエース戎（下松工高出）が連続ゲット、再び差を開き逃げ込んだ。三菱レ―日本合成は前半15分まで互角。三菱はベテラン赤名、日本合成は服部、柳沢が活躍、おもしろい試合になったが、しだいに三井が地力を発揮し制勝。安田生命―盛岡市役所は、安田が坂井（中大出、国際学生出場）を中心に前半リードした。盛岡も試合を捨てず後半27分には1点差に追いついた。しかし、安田は終了間ぎわに連続得点して辛勝。32普通科連隊―京都市役所は後半25分16―16という接戦。32連隊が熊谷（花泉高出）らの好技で5点連取して勝負を決めた。

この4試合を除いては内容的に低調な試合が多く、やはり有力チームが登場しないと盛り上がりがない。水戸工高OBを中心とした異色チーム原子力研究所は、後半見事な攻撃で快勝した。

▽男子二回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
三菱レイヨン大竹	15	10－4	5－4	8	原子力研究所
本田技研（三重）	30	14－7	16－7	14	自衛隊32普通科連
岡野バルブ（福岡）	棄権				タヨシ産業

（注）タヨシ産業は、前日の対美津濃戦で負傷者を続出、チーム編成不能のため棄権した。

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
千代田印刷機（東京）	19	13－10	6－4	14	三井石油化学
宗形製作所（大阪）	25	12－4	13－3	7	三菱重工
日本鋼管（神奈川）	24	12－10	12－7	17	自衛隊勝田
大崎電気（埼玉）	42	22－2	20－4	6	丸善石油
住友化学菊本（愛媛）	19	12－3	7－4	7	安田生命

〔評〕順当な結果に終わったなかで、千代田印刷機製造に善戦した三井石油化学の試合ぶりが目立った。

青木（芝浦工大出）を持つ千代田は前半15分まで6―0とリード、三井もよく反撃して後半14分に10―8と追った。しかしそのあと千代田が試合のペースを握り押し切った。（杉山）

▽男子準々決勝

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
大崎電気	27	12－5	15－8	13	岡野バルブ

〔評〕大崎は後半になって調子を出した。岡野は矢島（小倉工高出）を得点源にして善戦したが、デフィェンスを固められると、それをくずすスピードがない。前半の健闘が精いっぱいだった（杉山）

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
日本鋼管	18	9－5	9－7	12	住友化学菊本

〔評〕前半10分まで2―2。鋼管は12分から連続5点をあげて一方的に押し切るかに見えたが、住友も長嶺を中心に盛り返し、勝負を後半に持ち込んだ。後半一進一

すばらしかった大崎電気（女子）

村田　弘

総評

男子は大崎電気。女子は大崎電気または田村紡が優勝するだろうと予想されていた。結果は男女とも大崎電気が昨年夏の全日本総合選手権に次いで二度目の男女優勝をした。抜群の大崎電気、2位宗形製作所、3位千代田印刷機製造のハンドボールキャリアが相手を寄せつけなかった。日本鋼管、岡野バルブ、三菱レイヨン大竹、本田技研鈴鹿は若さとチームワークの良さで好チームであったが、上記3チームとの対戦で惨敗したのは以外だった。キャリアの相違はあろうが、ファイトを出して戦えるはずだった。いちばん印象に残ったゲームは準決勝の宗形製作所対千代田印刷機戦。前半千代田は速攻と安藤、西尾のポストプレーでリードした。後半宗形の越智、多久らの活躍も手伝って逆転に成功した。千代田は7人のメンバーで本大会にのぞんだことが、このゲームを失った最大の原因といえる。それにしても得点の少ないゲームであった。

女子はリーグ戦形式を採用し、Bブロックから大崎電気、Cブロックから大洋デパートが順当に決勝リーグに駒を進めた。Aブロック（田村紡績、レナウン東京、熊亀クラブ）は熊亀クラブ（大洋デパート二軍）が若さと思い切ったプレーでレナウン工業東京を破り、田村紡に善戦した。レナウン東京は昨年12月の室内大会で田村紡に8―13で敗れていたので、太田の欠場、竹本川上の退部にもかかわらず猛烈なファイトと風岡の豪快なシュートで田村紡を押えた。この結果得点率（熊亀5.23、田村紡5.00、レナウン東京4.80）で熊亀クラブが決勝リーグへ進出した。田村紡績は洗練された強チームでよく走り、ボールもよく回っていたが、中央攻撃に片寄りすぎて得点機を逸した。コンディションの調整にも欠陥があったと思う。

決勝リーグの大崎電気―大洋デパートは大崎の早いボール回しと、エネルギッシュな走力、それに変化に富んだ作戦をうまく使うなどすばらしかった。それに反し大洋デパートはセットオフェンスを繰り返えすだけであ

退から住友は7分1点差としたが、その後加藤がマークされて得点が止まってしまった。鋼管はこのスキにダブル・ポストから着実に得点、待望のベストフォア進出をとげた。住友は加藤にたよりすぎたことと、ディフェンスの甘かったことが敗因だ。（小西主審）

宗形製作所 17（8—2、9—6）8 本田技研

〔評〕 宗形はスピードの不足をうまい試合運びで補っている。芝浦工大出をそろえているだけに攻防両面でソツがない。現在の実業団のレベルではこれは大きな戦力である。この試合では守備力にその差が現われ、大会ごとに腕を上げていた本田も反撃の気勢を示せぬまま敗退してしまった。（杉山）

千代田印刷機製造 20（9—4、11—2）6 三菱レイヨン大竹

〔評〕 連続出場の三菱レ、初出場の千代田。しかし千代田は青木、安藤を攻撃の軸にし、守っても GK 永富（桃山学院大出）の守定したプレーで初出場とは思えぬ試合を展開。三菱はゴール前での動きが単調でスピードもなく、特に後半は全くよいところがなかった。（杉山）

▽男子準決勝

大崎電気 25（10—2、15—3）5 日本鋼管

〔評〕 鋼管がどこまで食い下がるか注目されたが、あっさり序盤で差がついてしまった。全国大会の準決勝とは思えぬという批評も聞こえたが、トーナメントで3チームを選び、決勝リーグで大崎電気を加えるような方法でもとらぬ限り解決しない。（杉山）

宗形製作所 10（3—6、7—3）9 千代田印刷機製造

好試合だった。総合力としては宗形の方が少し上だが、この試合では千代田の善戦をほめるべきだ。後半21分になって宗形がやっと8—7とリードするほど千代田のプレーはよかった。宗形は文字どおり悪戦苦闘の連続だった。千代田はいいチームだ。（鴛尾）

◇男子決勝

大崎電気 27（12—5、15—7）12 宗形製作所

▽レフェリー 光島（日体大出）

得	【宗形】		【大崎】	得
0	鷹見	GK	福本	0
1	川辺	FP	田口	2
2	多久		宮原藤	3
3	久保		小谷内	0
0	中村		金田	3
6	越智		北村	4
0	栗沢		竹野	5
0	好田		井上	9
			坂野	1
			餅原	0
12	(2)	7MT	(2)	27

〔評〕 大崎の速攻は見事。福本のボール出しが正確なため、全員が思い切って走っていた。また井上のカットインプレーはよかった。宗形も越智、久保、多久が善戦、小柄の川辺も実によく走っていた。大崎の優勝は当然。（鴛尾）

4月15日に羽田発

中国遠征、正式に決定

日本協会は2月22日、中国遠征を発表した。4月15日羽田発で出発、北京、上海、広東の三都市で9試合を行なうことになった。滞在日程は約3週間。選手団は17人、帰国は5月8日。

▽団長 高島冽（日本協会理事長）▽監督 岡村昭二（日本協会常務理事）▽コーチ 藤田信義（山口県協会理事長）▽マネジャー 河東田義郎（河北新報記者）▽GK 福本弘（大崎電気）島崎政治（大阪府桜塚高教諭）▽FP 竹野奉昭、宮原藤支男、田口侑義、北村尚英、井上素行、金田純男、市原則之、西村功（以上大崎電気）東嘉伸（大阪府三ケ丘高教諭）青木義男（大阪府佐野工高教諭）森田謙喜（中央電気）

まりさえなかった。揖斐川電気、東京重機が上記チームに接近してきたことは喜こばしい。

伝統ある住友化学菊本はスタミナ不足のため新鋭の日本鋼管に敗れた。女子の愛知紡績とともにこれを機会に若返りして新しいスタートを切ってほしい。

男子の選手に言えることだが、基礎体力の養成が急務である。技術的に今大会を振り返ってみると

①ゲーム展開の予測がおそいので、パスの動作が遅れ、プレーにスピードがない。

②ショートパスのコントロールが悪い。

③ボールから目を離すためキャッチミスが多い。

④敵ボール防御、味方ボール攻撃の切り替えがおそい。（出足が悪い）。

⑤左利きを生かした攻撃法が研究されていない。

⑥攻撃の組織的な動きはできているが、得点の取れる攻撃をやっていない。また攻撃の〝キッカケ〟をつかむのがへたである。

⑦個人防御において敵の〝フトコロ〟にはいるのがまずく、また組織力を生かせていない。

⑧無茶なシュートを打って逆に速攻を受け、得点されている。

⑨ベンチの作戦の立てかたが悪い。

⑩ドリブルを武器として使用していない。

総合して言えることは基礎練習ができていない。審判面ではオーバーステップの見のがしが目だったのと、プレーの進展によってとるべき位置がまずいことがあげられる。

私は今大会の優秀選手を次のように選んでみた。

▽男子

竹野、井上、北村、金田、餅原（大崎電気）越智、多久（宗形）中村（日本鋼管）矢島（岡野バルブ）坂井（安田生命）青木、安藤、西尾（千代田印刷機）加藤（住友化学菊本）以上FP。福本（大崎電気）鷹見（宗形）湯原（日本鋼管）以上GK。

▽女子

鈴木、早川、宇井、田村（大崎電気）西村、久連松、新保（大洋デパート）枝尾（熊亀）種村、水谷、内藤（田村紡）渡辺、風岡（レナウン東京）塚原、古谷（愛知紡）以上FP。

古谷（大崎電気）柿沼（レナウン東京）篠崎（愛知紡）渡辺（田村紡）小原（熊亀クラブ）以上GK。

1964年度を顧りみて

若崎重富
（日本協会常務理事）

1964年度の日本ハンドボール界は苦しみの年であり、また無限の希望に向かって一歩を踏み出した年でもあった。オリンピック東京大会の除外を決定された瞬間、JOCの席上で高島理事長のほおから落ちたひとしずくの涙は日本のハンドボール関係者のすべての人の涙でもあった。それから3年の昨年10月10日、国立競技場にはなばなしく展開されていく開会式を目前に見て、胸の奥底からこみあげてくるくやし涙。それを歯を食いしばってがまんしながら、心の中で「よーし。いまにきっと……。負けてたまるものか」と誓った。また、オリンピックの閉会式を見て強い心の鼓動を感じた。それは閉会式がすばらしいための感激ではない。いよいよこのときから大きな目標に向かって、同じ条件のもとにスタートラインに立った競技者の心境である。ここに本年度の行事を中心に回顧し、将来への展望としたい。

成功した日仏親善大会

フランスとの国際試合はオリンピック熱の盛んになったときだけに実にタイムリーであった。7人制を採用してから国内における初めての国際試合でもある。女子チームの来日は日本ハンドボール界の新らしい歴史の一ページを飾るものと期待した。それが突然フランス側のつごうによって中止になったので、各開催地は大きな打撃を受けた。なかでも日本協会の役員は一瞬、呆然自失の状態に陥った。しかし地方の関係者の苦労を思えば、そんなことを言ってはいられない。自分にムチを打ってすみやかにその善後策を練った。各開催地の協力もあって、とにかくフランスを受け入れてりっぱに大会を終わらせた。お互いに肩をたたいて喜び合った。将来にもっと困難な壁にぶつかるかもしれないが、ハンドボールの愛好者の団結と協力がこれを解決していくことができることを実証したのである。東京、横浜、名古屋、京都、大阪、下松、熊本の各地で10試合行ない、全芝浦工大、全同志社大、千代田印刷機製造、大崎電気がそれぞれ勝利をあげた。チーム結成の日も浅い千代田印刷機が圧勝をしたことは、実業団チームの将来に大きな希望を与えた。

北信越地区の発展を期待（国体）

新潟国体は地元新潟県チームが各種目の上位に進出し、総合優勝をとげた。このことが良い機会となって北信越地方の普及発展の基になってもらいたい。一般男子では世界選手権代表をそろえた大崎電気が、抜群の強さを見せてくれたのはよい刺激となった。女子ではレナウン工業東京が実業団に引き続いて初優勝を飾り、独走態勢にはいるような感じを与えた。高校の部では開催時期が早かったため、基礎技術の未熟さが目だっていた。教員の部では大阪イーグルスが優勝したが、全般的に低調。これからこの部のあり方について一考を要する。大会の運営面では主競技場の近くに体育館があったので、雨天のための運営に障害がなかった。

まずかった会場分散（全日本総合）

全日本総合選手権決勝で大崎電気対全立大が力のこもった好試合を見せ、地元の観衆の印象を強くした。キャリアにまさる大崎電気の優勝に終わったが、力においては差はない。この試合でベンチの重要性を再認識させられた。準決勝に進出した日体大ク、関学の奮起を望みたい。女子は実業団チームが上位を占め、ロンド工業、田村紡、揖斐川電気が育った。実力も伯仲し、今後の成長に期待をかけたい。春の国体にくずれていた愛知紡がレナウン東京に粘り、結局抽選勝ちして決勝戦に進出した根性はすばらしい。大会の運営では会場が市街地から遠く離れていることと、体育館が分散していてせまいことが難点であった。これでは各チームも実力を発揮できずに終わってしまったのではないだろうか。国体を誘致する心構えとしては物たりなさを感じた。協会もこれらの施策を考えてみたいものである。

全般的に低調（教職員）

全日本教職員選手権は国体に続いて大阪イーグルス対熊本教員の決勝戦となった。相変わらず他チームの低調なことを物語っている。スワロー兵庫、長野教員は非常に伸びてきているが、全般的にはまだまだの感がある。大会もこれまでに7回を数えている。この

へんで再検討を必要とする時機にきている。たとえば体育館を使用しないで屋外に2～3面のコートを取り、夕方から試合をするとか、コートをややせまくして体育館に2面とることなども考えられる。

活躍した大崎男女チーム

各県は国体の教員の部に力を注ぐよりも、この大会に専心し、各都道府県対抗ができるように発展してもらいたい。また参加する選手も、一般の選手と違って指導者の立ち場から試合をし、研修し、自己の人格を向上させる場所とするよう努力してほしい。

しっかりしろ!!学連

全日本学生選手権は1回戦で教大と同志社が好試合を展開しただけで、あとの試合の内容は全くお粗末。わずかに決勝戦で芝浦工大と同志社大が学生選手権にふさわしい試合をやって面目を保った。ベスト4は気力、技術ともに進歩のあとを見せていた。関東、関西のリーグに属していないチームの成長がこの大会の内容を高めるカギである。大会運営では広島県協会と地元学連の連絡や協議の不手ぎわから、内面的に多少のトラブルはあったが、県協会も学連を育てていくために大きくツバサを広げてほしい。学生側にもいろいろな理由や意見があるだろうが、「ハンドボール」の名のもとに一つとなることができるのではないか。大会申し込み後、棄権をしたチームが2チームあったこと、ベンチのマナーの悪い点など反省する必要がある。また同一大会中、途中で会場を屋外から屋内に変更することにも問題がある。天候に支障がないかぎり、〃スポーツマンよ太陽のものに力をきそおうではないか〃。

欠けていた力強さ（全国高校）

全国高校選手権は国体の開催が早かった関係からじゅうぶん基礎技術を修得する時間的余裕がなかった。それで試合に追われたために形式に走った各チームが多かった。形態的には長身の選手が増加していたが、力強さに欠けていた。高校選手は短期間に完成できるものではない。彼らの成長を長い目で見、いつか芽ばえる潜在力を伸ばしてやってほしい。功をあせって、素質のある選手を傷つけてもらいたくない。

新風を送った田村紡（全日本室内）

全日本総合室内選手権は決勝リーグ方式を採用した。協会創立後初めての試みであっただけに、いちまつの不安があった。だが一応目的を達成したが、内容については再考を要する。16チームにしぼり、強豪の対戦を予想したのに反し、上位4チームを除いてはまだ物たりない感じを与えた。全立大がダイナミックな攻撃を展開し、老巧な大崎電気を破って優勝した力は賞賛されてよい。この試合であらためて、ハンドボールはチームゲームであるということを教えられた。女子は田村紡が初優勝した。女子のハンドボール界に新風を送ったことでその成果は大きい。大会運営も駒沢体育館は地方からの観光客でにぎわい、東京体育館は地の利を得て連日多くの観衆を収容した。東京都協会が入場券（全期間100円、1回50円）の発売を勇気をもって実行した。これが観衆を多く集めることができた一因である。

全体的にレベル向上（全日本実業団）

全日本実業団選手権は全日本総合室内で優勝した田村紡の成長に期待をかけられたが、レナウン東京にしてやられた。全体のレベルは向上しているが、女子チームの少ないことが気にかかる。大会期間中に長年懸案であった実業団連盟の結成を見たことは意義深い。今後の発展と活躍に期待したい。

第一線に立てA級審判員

さていままで行事を追って反省してきたが、大会ごとに問題となるのは審判員の質と編成である。審判員の編成は開催県開催地区、各地区、本部協会の中から選抜している。とくに各地区、本部協会から選出される審判員は各大会に重複しないような原則を作っているが、まだ特定の人が2回、3回と選出されている。これは審判委員会の目的や方針と、はなはだしく相反していることだ。数の問題にしても精鋭主義でいかなければならない。質の問題では、つねによく動く審判、誠意ある審判などと要求しているが、まだ実行されていない。特に全日本学生、全国高校などの審判技術は未熟で、しばしばトラブルの発生の原因を作っている。それにゴールジャッジの技術にいたってはお粗末そのもので、見ていてハラハラした。テーブルオフィシャルの確立もなければならないのではないか。

ハンドボールシューズを公認 4月から売り出す

日本協会は昨年10月からゼネラルスポーツ株式会社を通じて釣鐘ゴム株式会社に「ハンドボールシューズ」を試作させていたが、2月19日完成した。2月20日の全国理事会でこのむね報告、27日の全国評議員会で公認シューズにすることを承認された。4月1日から全国に売り出される。このシューズは高島理事長が昨年3月の男子7人制世界選手権大会で、ヨーロッパ選手の使用しているシューズが日本製よりもかなりじょうぶにできているのを見て「日本でもヨーロッパなみのシューズがぜひ必要だ」ということで同社に試作させていたもの。特徴は底に〃吸盤〃がついていること。この吸盤はストップをかけるためのもので、屋外、室内ともはける。パンフレットは近く同社から全国の登録チームに発送する。価格はまだ正式に決まっていないが二千円前後。

日本協会だより

40年度日程など決まる

副会長を2名増員

日本協会全国評議員会は2月27日午後2時から東京・代々木の岸記念体育館会議室で開き、次のことを決めた。（くわしいことは次号21号でお知らせします）

〔役員改選〕

▽会　長　式場隆三郎（再）
▽副会長　出口林次郎（再）　馬場　太郎（再）　小杉　仁造（新）　鈴木　達雄（新）
▽理事長　高嶋　冽（再）
▽常務理事　的場　益雄　山岡　二郎　若崎　重富　松本　重雄　吉田正次郎　徳永　陸繁　宮崎顕一郎　山田　計　青木　近衛　岡村　昭二　加藤　裕策　境井　秀三　入江　暢一　栗脇　嶷　浜田猪三郎

〔協議決定事項〕

▽重点施策　中学校体育指導要領の復活促進、未加盟県（徳島、佐賀、沖縄）の協会設立促進、ハンドボール少年団の育成を強力に推進する。

▽国際試合　日中相互交流による日本チームの中国遠征は4月15日羽田発と決まり、約3週間にわたって北京、上海、広州の三都市で9試合を行なう。日ソ相互交流による日本チームのソ連遠征は、高嶋理事長がソ連側と交渉を続け、近く正式に決まる。日本遠征を予定されていた西ドイツチームはつごうにより中止。

▽全日本総合選手権の出場チーム。

①前年度優秀チーム（日本協会推薦）　5
②ブロック代表　12
注＝9ブロック各1チームとし、関東、東海、近畿は各1チームを追加。
③実業団代表　4
④学生代表　9
⑤地元代表　2

ただし女子は当分の間、自由参加とし、32チームを越えるときは理事会で32チームを決める。

▽全日本総合室内選手権大会（男子16、女子12チーム）

「男子」
①優秀チーム　4
②実業団代表　4
③学生代表　6
④日本協会推薦　2

「女子」
①優秀チーム　4
②実業団代表　5
③学生代表　1
④日本協会推薦　2

試合方式は男子16チームを4チームずつ、女子12チームを3チームずつの4つのブロックに分けて予選リーグを行ない、各ブロックの1位チームによって決勝リーグを行なう。大会期間は6日間。

全日本実業団連盟設立

全日本実業団ハンドボール連盟設立準備委員会は2月6日午後6時から大阪府立体育館会議室で開かれた。実業団から渡辺和美（大崎電気社長）古賀健一郎（千代田印刷機）蔵本雅太（揖斐川電気）平川憲甫（宗形製作所）ら19社の代表世話人の日本協会から馬場副会長、高嶋理事長が出席した。席上高嶋理事長から「全日本実業団連盟の産婆役を買ってお世話したい」と発言、全員で協議した結果、満場一致で全日本実業団連盟設立を決定した。なお連盟規約、役員選出については渡辺和美氏に一任することに決めた。

〔出席者〕
大崎電気、千代田印刷機、レナウン工業東京、安田生命、宗形製作所、自衛隊勝田施設学校、タヨシ産業、美津濃、大阪ガス、丸紅飯田、日本鋼管、大洋デパート、常盤工業、揖斐川電気、日東電気、岡野バルブ、レナウン工業大阪、京都信用金庫、愛知紡。

昭和40年度日程

――国内関係――

第8回　全日本学生選手権大会
6月26日～7月11日　東京都

第16回　全国高等学校選手権大会
8月1日～8月7日　熊本市

第8回　全日本教職員選手権大会
8月中旬　場所未定

第27回　全日本総合選手権大会
8月22日～8月26日　大分市

第15回　全日本学生東西対抗
9月5日　名古屋市

第20回　国民体育大会
10月25日～10月29日　高山市

第18回　全日本学生王座決定戦
11月23日　東京都

第12回　全日本総合室内選手権大会
12月14日～12月19日　東京都

第6回　全日本実業団選手権大会
41年2月3日～2月6日
大阪、名古屋、柏崎の三市が立候補。

――国際試合――

日中相互交流
4月15日から約3週間　男子派遣

日ソ相互交流
6月～7月約3週間　男子，女子派遣

第3回　女子7人制世界選手権大会
11月　西ドイツ　女子派遣

全日本実業団ハンドボール連盟規約抜粋

第一章 総 則

第一条（名称）本連盟は全日本実業団ハンドボール連盟という。

第三条（組織）本連盟は東日本、中部、関西、中・四国、九州の各地域連盟で組織し，地域の範囲については理事会の承認によって決める。

第四条（目的と事業）本連盟は日本ハンドボール界の発展のため日本ハンドボール協会に協力し、実業団チームの育成を目的とする。さらに事業として毎年日本協会と共同主催で全日本実業団選手権大会を開催する。

第二章 役 員

第五条（役員）本連盟に次の役員を置く。会長一名、副会長若干名、顧問若干名、参与若干名、理事長一名、副理事長一名、理事（常務理事若干名を含む）若干名。監事二名

第六条（会長、副会長）会長は本連盟を代表、統括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。会長は理事会で地域連盟の会長の中から推薦する。副会長は理事会でその他の地域連盟の会長の中から推薦する。

第三章 会 議

第十四条（会議）本連盟の会議は理事会、常務理事会とする。

「東日本」北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、東京、千葉、埼玉、神奈川、山梨、新潟。

「中部」愛知、静岡、三重、岐阜、富山、石川、福井、長野

「関西」滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

「中、四国」岡山、広島、山口島根、鳥取、香川、愛媛、高知

「九州」福岡、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島

第二十六条（地区別）第三条の地域連盟の範囲は次のとおり。

優 秀 選 手 を 表 彰

日本協会は2月27日、39年度の優秀チーム、優秀選手を次のように決めた。

〔優秀チーム〕

▽男 子	▽女 子
大崎電気	大崎電気
全立大	大洋デパート
日体大ク	レナウン東京
芝浦工大	田村紡
同志社大	愛知紡

〔一般の部〕

位置	氏名	年齢	所属	位置	氏名	年齢	所属
G.K	福本 弘	25	大崎電気	G.K	古谷 芳枝	22	大崎電気
	尾形 譲	20	全立大		篠崎 益野	22	愛知紡
F.P	安達 精太	22	〃	F.P	宇井 敬子	22	大崎電気
	中根 敏男	22	〃		田村うた子	22	〃
	江名 英彦	21	〃		早川 清美	21	〃
	木野 実	18	〃		鈴木 功子	21	〃
	竹野 奉昭	28	大崎電気		西村八千代	22	大洋デパート
	北村 尚英	25	〃		久連松美和子	22	〃
	井上 素行	23	〃		渡辺 征子	21	レナウン工業東京
	東 嘉伸	28	日体大ク		太田美紀子	21	〃
	森末 和裕	22	関学		風岡 亮子	21	〃
	鳥井 繁夫	23	同志社大学		塚原 米子	24	愛知紡
	森田 謙喜	22	芝浦工大		古谷うめ子	23	〃
	池田 鉄哉	23	〃		水谷 秀子	18	田村紡
	北井 晴次	23	教大		内藤志津子	19	〃

〔ジュニアの部〕

男子の部				女子の部			
位置	氏名	学年	学校名	位置	氏名	学年	学校名
G.K	渡辺 武	3	加納高	G.K	今村 玲子	3	明善高
	下里 敏彦	3	熊本市商高		中村 繁子	3	大分東高
	綿貫 敏雄	3	明星高		酒井きよ子	3	栃木女高
F.P	中田 陽三	3	足利高	F.P	津田 和睦	3	明善高
	高橋 侚一	3	明星高		原 安紀子	3	〃
	五十嵐信行	3	〃		姫野真智子	3	大分東高
	若崎 重武	3	関東学院高		田辺世津子	3	栃木女高
	土師 茂	3	堺工高		町田 俊江	3	〃
	野田 清	3	愛知工高		松田 房枝	3	静岡城北高
	明石 英利	3	徳山高		落合トシ子	3	〃
	高橋 益夫	3	新居浜工高		安仁屋民子	3	名古屋女商
	高橋 富次	3	〃		加藤 井子	3	新居浜東高
	東 一敏	3	熊本市商高		木原 節子	3	菊池農蚕高
	広野 高士	3	明星高		堀越 洋子	3	水海道二高
	早見 賢造	3	加納高		森之内笑子	3	半田高
	今井 守彦	3	〃		森田 友子	3	尼崎高
	村上 司	3	熊本市商高		嶋田美代子	3	有磯高
	白神 邦雄	3	桜台高		小林左知子	3	大谷高
	加藤 洋	3	徳山高		田中 陽子	3	大分東高
	岩村 久敏	3	熊本市商高		船田 元子	3	栃木女高

〜〜競技規則一部改正の要点〜〜

フリースローはホイッスル吹かず
出退場はタイムキーパーに申告

〜〜岡村昭二〜〜

日本ハンドボール界が7人制に一本化して2年すぎた。日本国内はもちろんのこと、世界各国においても7人制の普及度は隆盛の一途をたどっている。われわれ愛好者にとって非常に喜ばしいことである。普及と向上につれてルールや技術が変わっていくことは当然のことである。日本ハンドボール協会は国際公報によってルールの一部改正を行ない、40年度から実施することになった。その要点と解説を述べる。

（注）『……』内が改正点。

〔1—1〕

競技場は『長さ38〜44m、幅18〜22m』の矩形で、それぞれサイドライン、ゴールラインと呼ぶ。

（解説）

① 望ましい競技場は40×22mである。この大きさは技術練習のため設けた基準であり、室内を使用するときや授業で行なうときはルール範囲内であってよい。

② 〔11—3〕『この規則はゴールラインが16m以下の競技場では適用されない（ゴールスロー）』を削除する。

③ 〔12—1（B）〕『ただしコーナースローの場合には第11条の3を参照せよ』を削除する。

〔3—3〕

競技者はいつでも競技に出場、または退場することができる。競技中、競技場外に出る競技者はレフェリーに申し出なければならない（フリースロー）（第3条の6を除く）。『競技場にはいる競技者はタイムキーパー』に申しでなければならない（フリースロー）（第3条の6を除く）。

（解説）

条文に第3条の6を除くとあるように、この条項は交代のための退出場を意味しているのではなく、たとえば試合当初5人のメンバーでゲームを始め、あらたに1人加わる—出場—とか何かの理由でプレーができなくなり、場外に自発的に出たい—退場—場合などを示している。今回から出場するさいにはレフェリーに届けなくてタイムキーパーに申し出ればよいことになった。

〔7—3〕

競技者がボールを『ゴールに』—削除。投げた後にゴールエリア内に踏み入った場合には、それが相手方に何の不利益も与えない場合に限り、罰則が与えられない。

（解説）

① 『ゴールに』を削除しても、従来どおりインプレー中にFPがゴールエリア内にはいることは反則対象の状態下にあることにかわりはない。

② 攻撃側について—シュートをするための連続動作として、たまたまゴールエリア内にはいったということであって、それが作戦上のパスや故意の動作であったり、またエリア内に落ちたあと、GKの妨害になるような状態がみられるときは反則である。たとえばシューターがシュート後エリア内にいるときにシュートボールがエリア内からフィールドに戻った。そのボールを同チームの競技者が拾い、プレーしてもシュートしてもかまわない。このときエリア内にまだ味方がいてもシュートしてはいれば得点となる。しかしエリア内の競技者が相手に不利益を与えていれば反則となる。

③ 防御側について—インプレー中、ボールをカットしたりパスしたあと、その反動でごく無意識にエリア内に落ちてしまったような状態のときは、反則にしなくてよい。

④ エリア内のFPについて—相手のプレーやプレーヤーになんら影響のないようなるべく早くエリア外（ゴールライン外やプレーに関与しないエリアライン外）に出る。

〔13—5〕

相手方が不正な配置にもかかわらず、ただちにフリースローを行なう方が、スローを行なうチームにとって有利である場合には、その不正な配置をただす必要はない。この条件が当てはまらない場合には、不正な配置はただださなければならない。

（解説）

①フリースローに立った者が相手側の誤った配置にもかかわらず、直接シュートやパスをした場合はそのまま続行とする。これはアドバンテージによる。すなわちスロアーの意志どおりにプレーしたと見なしてよい。

② 相手側が故意に不正な配置についてフリースローが妨げられた場合（たとえばスロアーの3m以内にいてボールカットに出る）、フリースローの判定をくだしよいが、状況によっては（たとえばスロアーの持っているボールをたたき落としたり、またそのボールを遠くに投げてしまったりするとか、3m以外に位置できるにもかかわらず故意に再度、不正配置にいる）退場もある。

② ゴール前フリースローの防御側反則を従来は1回目フリースロー、2回目から2分退場と申し合わせてあったが、機械的なこの申し合わせをやめる。特にフリースローはノーホイッスル（後述）に改正されたため、ゴール前フリースローは困難が伴なう。レフェリーはそのときの状況判断を的確に、アドバンテージを効果的にさせねばならない。

④ フリースロアーがいたずらにフェイント動作をしたり、防御側が故意にスロアーに近づいたりすることはやめるように指導する。

⑤ 防御側は相手のフリースローになったとき、すみやかにスロアーの位置から3m離れるよう動作する。

〔16—1〕

スローオフ、コーナースローおよびスローは、レフェリーのホイッスル後、……以下同じ。

（解説）

① フリースローを行なう前には、従来レフェリーが笛を吹いていたが、これからは笛を吹かない。従ってノーホイッスルは、ス

ローイン、フリースロー、ゴールスロー、レフェリースロー（キーパーボール）などである。

② すべてのフリースローをノーホイッスルにするということは少しでもゲーム運行をスピード化するのが目的である。そのためにルーズに流れないよう注意しなければならない。

〔16―2〕

『フリースローは、相手側が反則した地点からレフェリーのホイッスルなしで行なわれる。（ただし攻撃側チームのフリースローの場合、その場所がゴールエリアラインとフリースローラインの間にあるときは、フリースローラインのところで行なわれる）。フリースローを行なう競技者およびそのチームの競技者は、規則に定められた位置（13条の2および3）にいなければならない。これに反した場合には直ちに反則として相手側のフリースローとする。フリースローを行なうさい、故意に競技を遅らせた場合にはレフェリーはホイッスルを鳴らして、スローを行なうようにうながさなければならない。

（解説）

① 新条文として上記全文を入れる。

② レフェリーは方向指示を明確、かつ速やかに行なう。

③ 特にゴール前はポイント指示を明確にし、その位置とフリースロアーを立たせる。スロアーは示された位置でフリースローをする。勝手に位置を変えてはいけない。

④ 味方コート内からのフリースローの場合も、スロー終了時まで相手方フリースローライン内にはいってはいけない。

⑤ フリースローをするのがおそい場合には、レフェリーはホイッスルを鳴らしてスローをうながす。ホイッスルが鳴ったらオーバータイムに注意する。

〔17―9〕

退場時間終了後出場する競技者は、タイムキーパーの指示に従がわなければならない。

〔その他〕

① 退場を命じる場合、従来は「2分、5分、残り時間」であったのを「2分、2分、2分、5分、残り時間（個人でなくチーム数回）」とする。

② 「審判部規則委員会資料」昭和39年1月9日付けの文中、B〔国際審判講習会から〕の⑩「ゴールエリア内でボールを持っているGKのボールをFPがエリア外からたたいて可」は、ミスプリントなので削除する。規則7―4により当然誤りである。（了）

東西で競技規則改正講習会

ルール改正による競技規則改正伝達講習会は2月7日午前9時から大阪府立体育会館で西日本関係者が参加して行なれわた。受講者は88人。午前中はルール改正について日本協会 若崎審判部長の説明、午後は実技を行なった。また東日本地区の講習会は2月14日午前9時から駒沢体育館で行なわれた。この日東京都高校新人大会最終日であり、改正ルールで試合を運営していたので参会者73人が観戦した。出席者次のとおり。

▽東日本地区（73人）

久田暁、江沼智恵、高橋通泰、大塚文雄、竹野奉昭、宮原俊隆、富田隆祐、原田佳代子、菅原文子繁野清子、石黒裕子、綱川佳子、岡本鈴子、松原美智子、渡辺慶寿、津島達郎、中野偉夫、深美成男、高橋英次、福本弘、宮原藤支男、永井勝雄（以上東京都）宮本酉嗣角田節（以上千葉県）井田万三郎本多正枝、野本忠雄、高橋健夫、宮下忠憲、西山逸成、樽川文雄、遠藤健次、大岩根加雄（以上埼玉県）町田歳雄。伊崎克己（以上群馬県）磯部浩、砂長誠、黒沢博美鈴木均、住谷稔、雨海左武郎、永山茂、大木友三郎（以上茨城県）佐分正典、碇一夫、栗城紘一郎、後藤幸生（以上神奈川県）高橋隆夫、細井操（以上栃木県）片瀬喜代治、平岩魁、望月正、渋谷行康大橋昭重、酒井美智子、沢野美幸（以上静岡県）田口和雄（長崎県）山田馨、米津寛（以上新潟県）旅逸郎（富山県）加藤雅之（長野県）村上俊一、柏崎茂、深山栄作（以上福島県）山崎金夫（宮城県）五島訓二（山形県）佐藤敦、箱崎敬吉梅野克野、佐々木茂喜（以上岩手県）由利弘（秋田県）田村侃三（青森県）

▽西日本地区（88人）

岡田重博、大塚滋治、吉川充滋古宮山喜郎、山下孝義、石野誠、宇野晴久（以上岐阜県）小袋是郎中西敬一、福田英明（以上福県県）高橋満年、山崎幸夫、越智武（以上愛媛県）鶴岡久雄（高知県）小西博喜、島本達夫、藤本昇、島田庄司（以上京都府）木村吉延、久（以上奈良県）財前久範、川西良広、亀谷長秀、吉渡正弘（以上大分県）山西寛、植松勇、蓮井潔（以上香川県）稲石三二、浅野克彦、鈴木稔、林藤吉、間瀬和義、河野好央田中滋章、西川勤也（以上愛知県）星井直、青木操（以上山口県）林静也、山田進、中井泰彦、川口譲（以上和歌山県）東哲郎、高林淳誠華立要、浜田広美（以上福井県）日沖修、奥井新子、高山宗学、金沢次郎、（以上三重県）辻一義、永山先一（以上岡山）上田喜代治、山本豊照、平田幸男、落合雅明（以上広島県）天野耕兵衛、伊藤義直（以上石川県）荒木時弥、北川浩（以上熊本県）増田茂美、長浜康央佐田金蔵（以上兵庫県）細井操（栃木県）高田浩一、尾本和男（以上滋賀県）坪内伸浩（静岡県）藤田信明山田計、村田弘、岡本克彰、中出盛雄、溝渕芳夫、山本孝男、光島磯雄、望月伸三郎、丸岡一清、東嘉伸藤井証、井上裕人、桑原芳子、松尾勝也、青木義男、北岡大覚、加藤紀明、島崎政治、長沢邦子

←規則改正講習会風景（大阪）

楽書帳　19回

飛車、角なしで快勝（レナウン）

鷲尾武治

〇…大阪で開かれた第5回全日本実業団選手権大会の女子に「熊亀クラブ」が出場し、レナウン工業東京を破って決勝リーグに進出してしまった。このチームは言わずと知れた〝大洋デパート〟の妹チーム。つまり二軍である。二軍というと、なにか弱そうに感じるが…。なかなかどうして。昨年12月の全日本総合室内のとき、井監督は「若い子にも大試合を経験させるために、実業国大会にはチームを二分して熊亀クラブを出場させます」と言っていた。（クマカメではなく、ユウキが正しい。熊は熊本の熊、亀は大洋デパート山口亀鶴社長の亀）。大洋デパート対熊亀クラブの試合を見て感じたことは技術では姉チームの勝ち。元気さでは妹チームの勝ち。ちょうど練習と同じようだった。ご苦労さま。

〇…この実業団大会で大崎電気の女子が優勝した。昨年12月の全日本総合室内では予選で田村紡に敗れ、翌日から三日間は大会本部記録席でお手伝い。このときの選手たちはしゅんとして気の毒だった。しかも年末年始には泣く泣く休暇を返上しての強化合宿。なかには郷里で正月を迎えようとプランを立てていた選手もいたほど。この根性、努力が実って男子とともに優勝。「試合にはやっぱり勝たなきゃだめねー。勝ってほんとうによかった。まともに歩けますし、会社へも大手を振って出勤できます。」──その気持ち、よくわかります。

〇…ところで気の毒だったのがレナウン工業東京。ベンチコーチの山田君が若い人たちの中にはいってプレーしていた。GKが二人かな…と錯覚を起こしそうになったくらい。監督の塩川君にきいたら「竹本、川上の二人が退部し、太田が左ヒザの故障で使えない。山田君を出場させないとチームの編成ができないのです。苦しいですよ。でもそんこと言っていられない」。そして予選リーグでは見事田村紡（全日本総合室内優勝）を破ってしまった。飛車、角、金の大駒三枚を抜いての善戦。しかも山田君をバックに置いて5人攻撃である。このファイトが田村紡を押えたのだ。日本協会の高嶋理事長は「大駒三枚を抜いて田村紡に勝ったのだからほめていい」と感心していた。

〇…日中交流の話が進んでいた矢先、国際ハンドボート連盟から「日本─中国の交流を承認する。非加盟国である中国がに加盟するよう日本が働きかけてほしい」と公文書が届いた。気をよくした高島理事長、胸をポントたたいて「おれはやるぞー」。このニュースが新聞に報道されると、他の競技団体は目を白黒したとか。

時評

難産した実業団連盟

──親心がアダとなる？──

▽…全日本実業団連盟が2月6日に誕生した。まことにおめでたいとである。と言いたいところだが…。これはすっきり生れたものでなく、産婆役の日本協会高島理事長の努力で難産しながらやっと陽の目を見たのである。難産だっただけに可愛いくもあり、また逆に奇型児になるんじゃないかと心配でもある。

▽…なぜ難産したんだろう。日本協会が連盟の規約案を発送したことに因縁をつけたことに始まる。日本協会はいくらかでもお手伝いしようという親心から事前に案を作製した。つまりこれがいけなかったらしい。「日本協会の作製した規約案なんかおかしくて。上から押しつけたようなものでは…。」というのがどうも本当らしい。

Tチームも M チームも全日本実業団連盟の結成に賛成しておきながら、いざ規約審議に移ろうとしたら「時期尚早である」「私は反対」と手の裏を返すような発言。会議はハチの巣を突っついたような騒ぎ。〝頭がどうかしているんじゃないか〟と思うほど。実業団連盟は実業団チーム自らの手で結成すべきなのに、それまで自分たちがなにもしていないのをタナに上げて、産婆役を買って出た日本協会にケチをつけるのはどうも筋違い。

▽…このTチームもMチームもそれぞれの地区で実業団リーグ戦をやっており、「実業団連盟は先輩格のおれたちの手で…」と思っていたに違いない。そればかりではない。話している内容がどうしてもツジツマが合わない。産婆さんにケチをつけるために出席したととられても仕方あるまい。お粗末この上もない。しかもチームの代表は「言いたいことを全部しゃべってくる」と言って会議に出席したとか。この席上で「規約案を発送していただいてありがとうございました。実は私たちがやらなければならないことだったのですが…」となぜ素直に言えないのか。どうして感謝の気持ちが出なかったのか。こんなことでは実業団ハンドボール界の将来は案じられる。貴重な時間を無駄に費してしまい、規約審議も役員人事もできなかった。とどのつまりは連盟結成を再確認するという不手ぎわ。

しかし「禍を転じて福と為す」のコトワザがある。そうなってほしいものだ。最後に言わせてもらう。「もうすこしおとなになれ」。

◇　◇　◇

海外ジャーナル

—西ドイツ協会週刊誌から—

競技人口は世界一

地区ごとにリーグ戦

西ドイツの国内試合から

今回から本誌に海外ジャーナルの欄が設けられることになった。西ドイツ・ハンドボール協会が毎週発行している週刊ハンドボール誌から参考になるニュースを、ハンドボールをやっている人、ハンドボールファンにぜひ読ませたいという編集者の希望があった。それで本号に連載していく。

西ドイツと日本のハンドボール界は戦前から密接な関係を持っていた。昭和32年の西ドイツ・チームの来日、数度にわたる世界選手権の遠征の途中で日本チームが西ドイツを訪れ、ますます親密の度を強めてきた。ハンドボール発祥の国であり、国民のスポーツとなっている西ドイツのハンドボール界の実状を知ることは、発展途のにある日本ハンドボール界にとって極めて有意義なことだ。西ドイツのハンドボール界については、断片的に従来の遠征チームの報告に見られるが、それを総合的に扱ったものはまだない。

本号では西ドイツのハンドボール界の実情をまず紹介し、次号から国際試合の記録、戦評、西ドイツ選手権の状況、トレーニング法、チームの紹介、戦術、作戦の手引きなどを連載していくことにしよう。

チーム数は世界一

西ドイツには、男子15、087、女子2、675、ジュニア11、770のチームがある。これは1964年の国際ハンドボール連盟の公式記録によるものであるが、男子、女子、ジュニアの三つを加えると、22、532に達する。日本のチーム数が急速に増加しつつあるとはいえ、同じ公式記録によれば男子で15倍、女子で7倍弱、ジュニアで実に30倍だ。世界全体で88、954のチームがあるから、約3分の1近いチーム数を持っている。チーム数が多いのに準じて、競技人口も多数にのぼっている。西ドイツハンドボール協会に競技者として登録されている人数は10万に近い数を示している。日本は2万近いプレーヤーを有しているが。西ドイツの数には遠く及ばない。世界のハンドボール競技者は現在150万人といわれているが、競技人口の面でも世界の競技者の3分の1を持っていることになる。

西ドイツの総人口は5、000万前後である。国民100人に1人はハンドボール競技者として登録されていることとなる。非常に多くの人がハンドボールをプレーし、いかに国民の中に、国民のスポーツとしてハンドボールが根をおろしているが。これによっても知られよう。

競技はシーズン制で 4月—9月・11人制、10月—3月・7人制

西ドイツでは競技にきびしいシーズン制が設けられている。4月から9月までの6カ月は屋外で11人制を、10月から3月までの6カ月は室内で7人制である。11人制ハンドボールを行なう国が少なくなったとはいえ。ハンドボール発祥の国、西ドイツでのハンドボールの主流はやはり11人制である。

7人制ハンドボールはドイツよりむしろスウェーデン、デンマークなど冬の長い北欧圏で発達したものである。ドイツで7人制が採り入れられたのは1930年代である。このようなところにも世界選手権での西ドイツの力を現わしている。11人制の世界選手権ではつねに優勝をしているが、7人制ではそれまで振るわない。これはシーズン制が原因ではないだろうか。

東欧、北欧は7人制に重点をおいている。西ドイツがシーズン制をやっているのは、気候、風土の条件が非常に大きな原因となっている。日本よりもはるかに高緯度にあり、しかもヨーロッパ大陸の真ん中に位置しているので、非常にきびしい気候条件に支配されている。この間の事情は札幌、ミュンヘン、ミルウォーキーという広告が同緯度で宣伝されているように札幌は日本の北辺に近く、ミュンヘンは西ドイツの南部に近いことからも、よくわかる。

長い永雪に閉ざされた長い冬。北部では北海の寒気をいっぱいに含んだ風が、南部では万年雪におおわれたアルプスから吹き降ろす

風が吹き荒れる冬。この季節には野外で競技が行なわるはずがない。室内での7人制競技が盛んに行なわれるのは、この時期である。やがて雪や氷が融け始めるころ、その冬の競技の総決算である国内選手権が行なわれる。敗れたチームはきたるべき屋外練習に励む。国内選手権に出場したチームはその喜びを胸に休むひまもなく、11人制の練習に…。4月に長く吹きすさんだ寒風もやみ、木々には緑がもえはじめる。待ちに待った春。

人々は屋外にとび出し、春の陽光をいっぱいに浴びる。長い冬の圧迫から解放され、グラウンドいっぱいに走り、跳び、投げる。11人制のシーズン到来だ。5月、6月、7月と短かい夏を惜しみながら、太陽をいっぱい吸収しようとグラウンドを走る。8月、各地のその年のチームの成績が決まりはじめる。9月、長かった夏の日もどんどん短かくなる。各地での成績が決まり、優秀チームは地方大会で優勝を争う。10月に夏の総決算である。11人制の国内選手権が行なわれる。ヨーロッパの秋は短かい。冬将軍はすぐそこまできている。優勝チームが決まり、優秀選手が決まるころには気の早い北風の吹く日がある。もう室内のシーズンだ。3月までは太陽ともお別れだ。夏にあれだけ多くの人々を沸かしたグラウンドにも霜が降り、雪がちらついている。このような気候条件下のシーズン制。むしろ当然であろう。西ドイツではこのように1年のシーズンを送っている。

試合は地区ごとのリーグ戦で

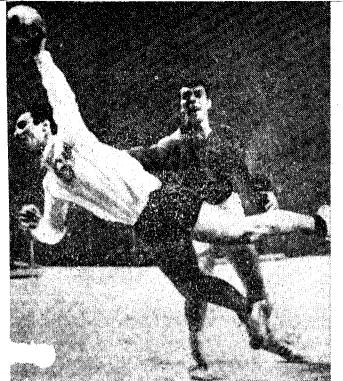
先にも書いたように、非常に多くのチームがある。毎週土曜、日曜は各地で試合が行なわれる。西ドイツでは北部、西部、南部というように地区に分け、その中をまたいくつかの地域単位に分ける。その地域内にあるチームによるリーグ戦を行なっている。ハングルグ、西ベルリン、下ライン、ラインランド、中部ライン、ボルテンベルグ、ヘッセン、バイエルン、ベストンアレン、シュレスビッヒ・ホルスタイン、南部バーデン、ザール、ファルツといった地区に分け、それぞれリーグ戦を行なっている。このように多数の地域に分けていてもチーム数が多いので、地域内でやはりいくつかのリーグを組織している。チームの力によって上級リーグ、それ以下のリーグと分け、多いところでは6－7のリーグが男子だけで作られている。女子もやはり3－4のリーグが作られ、これがそれぞれのリーグでの優勝をねらう。下級リーグではその地方の上級リーグへ進出しようとし、上級リーグでは優勝して西ドイツ選手権へ、さらにはヨーロッパ杯選手権へと望みを持っている。

各リーグは8－10のチームでできており、ほとんどのチームはクラブチームである。もっとも数年前、非常に強かったポリツァイ・SVのようなチームもある。ほとんどのチームがそのチーム名に所属する町の名をつけている。クラブチームが主体なので、同じ都市の名をつけたチームが多数ある。このように都市の名がつけられているので、ハンドボールファンは自分の町のチームに勝たせようとそれは大変なものである。戦績は勝ち点制度（勝ち…2点、引き分け…0点、負…マイナス2点）となっている。ちゃうど日本のプロ野球の戦績が連日新聞に出るように、ハンドボールの成績が週刊ハンドボール誌上をにぎわしている。勝ち点、総得失点、勝敗数がリーグごとにきちんといる。現在どのチームが成績がいいか、このようにして地域のリーグで勝ち抜いたチームは、地区大会で優勝を争い、ここでいい成績をあげるとドイツ選手権に出場できることになる。

各チームの最終目標は西ドイツ選手権で優勝することである。各選手の目標はナショナルチームに選ばれることである。1964年度のドイツ選手権獲得チームは7人制男子はBSV92ベルリン、7人制女子はFCニュールンベルグ、11人制男子はTUSベリングホッフェン、11人制女子は7人制と同じFCニュールンベルグチームである。

（藤本強）

西ドイツナショナルチーム（1964年世界選手権会場にて）

海外ジャーナル

1964年世界選手権から

—フランスレキップ紙から—

36年間で世界征服

競技人口は実に160万

おもしろくなった7人制

この数年間、世界のハンドボール界にとっていくつかの劇的な事件があった。第一はなんといっても1961年の第4回7人制男子世界選手権大会である。優勝はルーマニアとチェコの間で争われ、いずれのチームがスウェーデンに次いで世界の王座につくかに大きな関心が集まった。しかし60分の試合の間、ゲームは極めて消極的でルーマニアが9—8で勝った。このようなおもしろみのないゲームではハンドボールの将来はいったいどうなるかという疑問を持たざるを得なかった。この疑問はドルトムントの体育館を埋めた二万二千人の観衆がみんな持っていた。いままでの形式を打ち破ったこの新しい7人制ハンドボールの消極さからみて、過去のような魅力的なスポーツとしての性格を失ってしまうのではないかとさえ思った。言い替えると現在東ヨーロッパの国々がハンドボールの宝庫になりつつあるという現状にもかかわらず、この新しい7人制が守りに重点をおくゲームになり、積極性を失ってしまうことになる。私はこれを大いに心配した。しかしわれわれのこの疑問は全く間違っていた。昨年3月チェコで開かれた第5回7人制男子世界選手権大会が行なわれたが、大会が進むにつれて私のいままでの考え方はすっかり改まった。どのゲームを見ても驚くほど厚味のあるプレーが展開され。マン・ツー・マンの激しい戦いであった。およそいままでのハンドボールではかって見られなかった激しいプレー。6メートルラインでの密集、神経にも筋肉にとっても堪えがたいような激しさの中で、目まぐるしいテンポのゲームが展開されて、それは〝見るスポーツ〟としての迫力ある美しさを備えていた。このような激しいプレーはどのように生れたのだろうか。見ていても終始ゲームの推移に目を奪われ、決勝でスコアは実に25—22と47点も記録されるという現象。私はすっかり驚いてしまった。これには二つの大きな理由があるように思われる。第一はすべてのスポーツが発展するための基礎となるすばらしい肉体的なコンディションを、ハンドボール選手が持っていたことであり、これがゲームのレベルを急速に引き上げた。第二は技術的な問題である。いままでは北欧人だけが持っていたような手先の器用さをいまでは各国選手がいずれもマスターしはじめた。このような理由があるからこそ、現代のハンドボール選手はグラウンドで最高のプレーを発揮できるし、また不可能と思われていたワザを攻撃中に見せるのである。

パイオニア時代（1925—54年）

ところで世界ハンドボール発展の歴史を見る場合、私は三つの時期をあげることができる。この時代は世界大戦があったためハンドボールの歴史は分断されたが、ハンドボールそのものはきわめてそれまであまり知られていないスポーツだった。したがってこのゲームをPRすることがなんよりも大事であった。1936年のベルリ

昨年のルーマニア代表チーム

ン・オリンピック大会でドイツ、オーストリア、スウェーデン、デンマークの4カ国で11人制ハンドボールをデモンストレーションとして行ない、1938年には同じ4カ国によってベルリンで自称世界11人制選手権大会が開かれた。

ハンドボール発展期
（1954年―58年）

西欧、東欧にかかわらず、ヨーロッパではこの時期になってしだいにハンドボールにとりつかれてきた。この時代でもまだ11人制と、40年前から北欧人がプレーしていた7人制（室内）の二つに分かれていた。フランスでは1958年、日本は1963年から11人制を廃止して7人制一本に統一した。7人制に一本化は東ドイツ、西ドイツ、オーストリアを除く他の各国も直ちに波及した。ただこの3カ国は現在でも11人制と7人制を残し、それをシーズン制にして有効に運営し、ハンドボールを発展させてきた。

ハンドボールの世界的発展
（1958年―64年）

この時期は一方では競技の水準が全般的に向上したが、これと同時にヨーロッパ以外の各国でこのハンドボールが普及しはじめた。アフリカを見ても白人だけではなく、黒人スポーツ界の間でもハンドボールを新しい、そしてすばらしく、魅力的なスポーツとして大いに歓迎している。このような状態の中心、いまや世界には160万人のハンドボール人口がおり。ハンドボールはある意味では世界のスポーツ界を征服しはじめたといえよう。現在ハンドボールを行なっている国は次のとおり。

アルジェリア、東ドイツ、西ドイツ、アルゼンチン、オーストリア、ベルギー、ブラジル、ブルガリア、カメルーン、カナダ、中国、北朝鮮、韓国、象牙海岸、デンマーク、エジプト、スペイン、米国、フィンランド、フランス、オートボルタ、ハンガリー、アイスランド、イスラエル、日本、ルクセンブルグ、マダガスカル、マリ、モロッコ、ノルウェー、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セネガル、スウェーデン、スイス、シリア、チェコ、チュジニア、ソ連、ユーゴ。

写真上はノルウエー、下はソ連チーム

◎◎◎ 海外スコープ ◎◎◎

フランス対ドイツに遠征

カナダ

カナダ・ナショナル・チーム

は昨年12月フランス、西ドイツに遠征、フランスで2試合、西ドイツで7試合行なった。12月19日パリ郊外のサンモールでステラスポーツと試合し、17―17で引き分けた。このチームはモントリオール、トロントから選抜してナショナルチームを編成したもの。昨年アメリカチームと2試合し、第1試合27―17、第2試合22―13と2連勝している。

カナダチームのコーチ、アンディ・メジー氏（カナダ協会役員）はハンガリー出身。1954年から56年までハンガリー・ナショナル・チームの選手で、カナダに亡命したものである。同コーチは「カナダではハンドボールはまだ大衆的なスポーツではないが、こんどのヨーロッパ遠征によってカナダのハンドボールは飛躍的に向上すると思う。それはカナダ体協もハンドボールのよさの知り、経済的な援助をすると言っているからだ。非常に明るい希望を持っている。このヨーロッパ遠征は各選手が500ドル負を担した。初めての海外遠征としての意義は大きく、収獲も多かった。選手のほとんどはバスケットボールがうまい。したがって動きが非常に早い。エースのハーゲン君はシュート力が強いし、ドレーク君（黒人）はアメリカンフットボールとバスケットボールの選手だった。カナダチームとしてはこれからも国際試合を多くやって世界のレベルに追いつきたい」と話していた。

なおカナダにはクラブチームが40チームあり、競技人口は900人。ハンドボールの歴史はきわめて浅く、1953年に11人制が誕生し、1959年に7人制が生れた。

球界パトロール

低迷続ける名門、早慶明 二部に落ちた伝統の一戦

東京

昨秋の関東学生リーグで早大が二部に転落した。伝統の早慶戦は今春から皮肉にも、二部の日程に組み込まれることになった。

アマスポーツ、特に学生スポーツの発展は早慶が強くなければならないと言われている。慶大は昭和12年4月、早大は同年8月に生まれた日本ハンドボール球界の最古参チーム。ともに戦前関東学生リーグでは上位チームとして活躍。慶大は昭和16年春からの関東学生3連勝して黄金時代を築いたこともある。昭和15年夏には早慶帯同して韓国に指導遠征を行なっているほどである。戦後もいち早く復活し、ことに早大は昭和22年春からの三連勝して復興期の球界に大きな足跡を残している。そうした輝かしい球歴を誇る両大学は最近低迷の一途をたどり、優勝はもとより、上位グループからも姿を消してしまうほどの不振。今春両大学が二部に並ぶとあっては、もはや昔の面影は全くなしと言ってよいだろう。両校の最近での最良の成績を探ると早大が昭和28年の春秋優勝、慶大は昭和26年秋の2位といずれもひと昔前にさかのぼる。最近10年(20シーズン)の成績は別表のとおりで、慶大のちょう落の方が早大よりもひと足早い。両大学が二部に並ぶのは昭和30年秋、昭和31年春と過去に二回ある。こうした不振の原因を両大学のOBに聞くと『優秀高校選手の入学難』が最大の原因であると言う。両大学とも二百人近いOBを有し、しかも全国に散在していることから優秀高校選手のスカウトは比較的恵まれているわけ。だが肝心の入学試験をパスしない。たとえばあるシーズン、当時高校界で最優秀といわれたC選手が慶大志望と聞いて、慶大では同選手を受験勉強のために、半年近くもマネジャー宅に下宿させるほどの熱の入れ方だった。結果は不合格に終わった。そのときの慶大関係者の落胆ぶりは大変なものだった。口をそろえて『高校選手を勧誘する気がなくなった』と言っていたものだ。

最近10年間、早慶の門をくぐったハンドボール選手のうち、入学前からその技術に「全国的」と折り紙をつけられていたのは、早大では吉田正義(昭31・関東学院高)恵谷(昭32・住吉高)、長沢(昭34・池田高)平塚(昭35・日川高)山田(昭36・中京商)、宮本(昭36・関東学院高)、三沢(昭37・明星学苑)、小島(昭39・中京商)、旗野(昭39・明星学苑高)。慶大では谷口、中村(ともに昭30・両国高)、高久保(昭32・清水東高)、木本(昭33・北野高)、橋本(昭35・清水東高)堤(昭36・関東学院高)、安達(昭38・鎌倉学園)ぐらいのものである。ある早大のOBは『幸い、早慶両大学には附属高校がある(編集部注・早大学院と慶応高のこと)。そこで優秀選手を発堀し、大学に供給してもらう方法が残された唯一の道だ』と言う。国内最古参の両大学でありながらヨーロッパ遠征に選抜されたただ一人の選手諏訪紀一氏(昭和37年世界学生選手権代表・当時慶大主将)は慶応高時代野球部の選手であり、大学にはいって初めてハンドボールを経験している。ここにも最近の両大学の苦悩の一端がうかがわれる。しかし『最近の早慶には元気がない』(日本大OBの話)と言うのも事実のようだ。

OBの多くは黄金時代、栄光時代の卒業生であり、低調な現役への風当たりは強い。そのために現役選手は委縮してしまい、お粗末な試合を続ける。また『おれたちのときは芝浦は二部だった』などと言うがいたのでは現役の連中はついて来ないという意見もある。『早慶が弱くなったのは確かに入学難も一因だが、なにも早慶だけが狭き門ではない。たとえば関西でも関学、同大などは新人のことで苦労しているが、リーグ戦で優勝を握っているではないか。早慶の最近は〝名門だ〟という意地と根性に欠けている』(一担当記者の話)という見方も当たっているだろう。また早慶と並ぶ名門明大も昭和34年春に芝浦工大と優勝を分け合ったのをピークに、その後は下降線をたどっている。かつて栄光のビッグ・スリーといわれた早慶明の低迷はここしばらく続きそう。『三校の優勝争いなどもう絶対に見られないだろう』(担当記者)という悲観説さえある。しかしこの早慶明、とりわけ早慶のカムバック球界の待ち望むことの一つだ。高嶋理事長も『早慶の奮起は球界の発展につながる。リーグ戦や全日本などで早稲田と慶応の成績がいちばん気になることさえある』と言っているほど。強力な組織など他校に優れた面を活用して早慶の再出発を重ねて期待したい。

早慶・最近10年の成績
(関東学生リーグ)

	【早大】	【慶大】
昭和30年春	ともに東京6大学リーグ	
秋	2部1位	2部3位
昭和31年春	2部3位	2部1位
秋	ともに東京都大学リーグ	
昭和32年春 昭和33年春	ともに東京5大学リーグ	
昭和33年秋	5位	7位
昭和34年春	4位	8位
秋	2位	7位
昭和35年春	5位	7位
秋	3位	8位
昭和36年春	2位	2部1位
秋	4位	5位
昭和37年春	6位	7位
秋	3位	5位
昭和38年春	4位	8位
秋	5位	2部1位
昭和39年春	5位	2部1位
秋	8位	2部2位

――○――

塚原(愛知紡)ら退部

愛知紡の主力選手塚原米子(主将・水海道二高出)、横倉くら(同)、竹市淳(稲沢高出)小林清子(名古屋女商高出)の四人が2月末の東海室内選手権を最後に第一戦を退いた。

球界パトロール　熊本

男女混合でプレーを愛好者の集まり土曜会

東京オリンピックが終了したころから、熊本市内で毎週土曜日にハンドボール愛好者が集まってプレーを楽しんでいる。つまり外国式のクラブチームの組織である。老若男女を問わず、だれでも参加できるという日本ではめずらしいクラブ。名づけて〝土曜会〟。この発案者は熊本市立高校の北川浩先生。37年に日本の女子チームがヨーロッパ遠征したとき、北川先生がヨーロッパのクラブ組織を見て、日本にも普及させたら…と考えついたもの。そのころは〝オリンピック〟、〝オリンピック〟の掛け声に押されて実現しなかったが、オリンピック終了後に愛好者の間からこの声が出た。それで北川先生が中心となって、この土曜会の発足となった。

毎週土曜日の午後二時に熊本市立高校に集合する。学歴、性別を問わず、文字どおり男女共学である。〝だれでもプレーしたい人は集まれ〟—これがキャッチフレーズ、参加者を色分けすると（1）中学生（2）中学時代ハンドボールをやっていたが、高校へ進学したらハンドボール部がない（3）高校にハンドボール部があるが、先生が転校したため、プレーができない（4）先生はいるが、学校のつごうで練習できない（5）高校を卒業して社会人になったが、ハンドボールをやっていないと落ち着かない…ETC…。とにかくハンドボールが大好きだという連中の集まり。30人ないし50人が参加し、プレーする時間は2時間、軽くトレーニングしたあと、男女混合チーム（7人）を編成して勝ち抜き戦をやる。試合時間は10分間。『とにかく楽しいものです。参加者の全員が心からハンドボールを愛している人ばかりです。男の人の中に女の人がいたり、女の子のチームの中に男の人がいたりしておもしろい。将来はこの土曜会をクラブチームにまで持っていきたい』と北川先生は言う。県教育委員会もこの趣旨に賛成している。

盲人にハンドボールを　ねらいは運動不足解消

次いでにもう一つ熊本での話。それは盲人にハンドボールをやらせている。といってもこれは得点を争う試合ではない。目の不自由な人たちはどうしても運動不足だ。これを解消し、少しでもじょうぶになってもらおうというのが大きなねらいである。これは昨年10月熊本盲学校（在校生500人）の桑野スミ先生が熊本市立高校の北川浩先生に問い合わせてきたのがきっかけ。その理由は（1）体育の時間といっても盲人には走る運動がない。したがって運動不足になりがちである（2）盲人は野球、バレーボールをやっているが、競技に使用しているボールはいずれもハンドボールである。だからハンドボールを使っての健康的なゲームはないだろうか—というもの。そこで北川先生が協力を買って出た。半盲の人はプレーできるが、全盲の人にもプレーさせたいというので、半盲—全盲の二人がペアになる。もちろん手をつなぐ。ボールを受けるのは半盲の人、パスをするのは全盲の人と決めた。パスはすべてゴロ。パスをしたとき、摩擦音でボールの行くえを知る。コートの広さは縦30メートル、横15メートルぐらいにする。ゴールポストを立てると危険なので、これに代わるものとして（1）バックネットを張り、ボールがネットに当たると鈴がなる（2）あるいはゴールポストの代わりに人を2人立たせ、その間にボールが通過すれば得点にする—といった方法をとっている。半盲の人が全盲の人を引っ張って走ることは運動不足の解消ばかりでなく、全盲の人が雑踏の中でも平気で飛び込んでいける訓練にもなる。つまり一石二鳥というわけ。したがって全盲の人も半盲の人もプレーするときは一生懸命。北川先生は「最初のうちは気の毒だと思ったが、いまは違う。ハンドボールを通じて不幸な人たちの体位向上に役立てば…と思って、できるだけの協力をしています。講習会には80人も参加するほど熱心です」と言う。

白取愛玲さんが結婚

京都女子高校監督の白取愛玲さん（29）は3月26日京都私学会館で審（あきら）富雄さん（30）と結婚式をあげた。媒酌人は京都府柔道連盟理事長の森下勇氏夫妻。新郎審氏は柔道5段。天理大出身で現在平安高校勤務。

39年・10大ニュース

トップは世界選手権

本誌・編集部選定

本誌編集部は39年1月1日から12月31日までにハンドボール界に起きた10大ニュースを次のように選定した。

10大ニュースのトップは文句なく世界選手権大会で日本が1勝をあげたことである。早大が関東学生リーグで二部に落ち、第9位にランクされたのが注目される。

① 第5回男子7人制世界選手権大会で日本初めて1勝をあげる（3月）

昨年3日6日からチェコで開かれた。日本はD組（パルドビッチ）に出場、第1日に前回7位のノルウェーと対戦。竹野、北村、住広らの大活躍でノルウェーを18—14で破り、日本ハンドボール協会創立いらい27年にして貴重な勝ち星をあげた。続くソ連、ルーマニアに敗れて準決勝リーグ進出はならなかったが、16カ国参加中、堂々と11位になった。日本チームは最も規則正しく、礼儀正しいチームとして表彰された。

② フランスチームの来日と日本側の善戦（6月）

4年ぶりの欧州チーム。このチームはステラ・クラグ。女子が来日直前で中止になったのは惜しまれた。目新らしい技術はなかったが、クラブチームとしては最高水準であり、本場の層の厚さを感じさせた。単独チームばかりの日本側が4勝（全芝浦工大、千代田印刷機、同志社大、大崎電気）したのも、ヨーロッパのレベルに近づいたものとして特筆される。ステラの通算成績は6勝4敗。

③ 大崎電気、夏の全日本総合選手権で男女優勝（8月）

昨年8月岐阜県高山市で開かれた全日本総合選手権大会で大崎電気の男子は全立大を、女子は愛知紡を破って男女とも優勝した。全日本総合で同一会社の男女チームが優勝したのは協会創立いらい初めての偉業である。第18回国体で徳山高校が男子高校、女子高校の部で優勝している例がある。男子の主力は昨年の世界選手権出場者であり、いちじは全立大にリーグされたが、見事逆転優勝した。

④ 全立大、第11回全日本総合室内選手権大会で初優勝（12月）

第11回全日本総合室内選手権大会は昨年12月東京で開かれた。

全立大は夏の全日本総合選手権決勝で大崎電気に敗れたので、この大会にすべてをかけた。安達、中根らのOBが現役にまじって強化合宿をつづけ、〝打倒大崎〟を目ざした。11月の東京選手権決勝で大崎電気を破り、そして、この大会でも大崎電気、日体大ク、同志社大を連破して優勝した。

⑤ 田村紡、第11回全日本総合室内選手権で初優勝（12月）

〝黒い旋風〟をまき起こしたチーム。〝ハンドボールの魔女〟とさえいわれた。予選リーグで常勝大崎電気を破り、決勝リーグでも大洋デパート、レナウン工業東京、愛知紡を一方的に押え、あっという間に王座についた。中学出を中心にして三年たらずの新しいチーム。若さ、スピードはすばらしかった。田村紡が優勝すると予想したものは一人もいなかったに違いない。それほど田村紡のプレーは目ざましかった。

⑥ 芝浦工大、全日本学生選手権・全日本学生王座を獲得（7月・12月）

芝浦工大はスケールが小さくなったといわれながらも、学生界での実力はいぜんナンバー・ワン。全日本学生王座獲得はこれで4年連続、7回目。関学の記録へあと1回と迫った。全日本学生選手権は6度目の優勝。

⑦ 全国高校選手権で明星（東京）、栃木女初優勝（8月）

優勝校が常連化していただけに男女とも初の栄冠という意義は大きい。またこの大会は番狂わせが多く、全般的なレベルの向上、地域差が少なくなったことを示した。

⑧ 大阪イーグルス、教員界で圧倒的な強さ

第19回国体、8月の全日本教職員選手権でいずれも2連勝した。教員界に新風を吹き込んだものとしてその活躍ぶりはすばらしかった。

⑨ 早大、二部転落（11月）

学生界の名門早大が関東学生秋季リーグで最下位となり、入れ替え戦でも茨城大に敗れて二部に落ちた。転落は昭和31年春季につぎ二度目。28年の春秋優勝や22年春からの3連勝など輝やかしい球歴を持つだけにこの転落は寂しい。

⑩ 同志社大、関西学生リーグに春秋優勝（5月、11月）

同大の春秋優勝は初めて。6月には日仏戦に出場するなど充実した活動を示し、ようやく関西学生男子に関学の対抗勢力が生まれたとみてよい。関学、同大を中心に再び関西勢力が打倒関東に闘志を燃やしてほしい。

（次点）
◎桃山学院大除名問題、ようやく解決（12月）

—○—

高校チーム沖縄へ遠征

日本協会は3月20日、高校男女各2チームを沖縄に派遣することを決めた。これは沖縄はハンドボールを普及、協会を促進させる目的のため。すでに沖縄体協から受け入れるむね連絡があった。派遣チームは男子の熊本市立商高、徳山高、女子の熊本市立高、徳山高の4チーム。3月31日から1週間遠征した。

連載第11回

ハンドボール球史

——関東学生リーグ・最終回——

安定期に入った関東学連に突然起こったのが昭和29年春の分裂騒ぎだ。本部協会の審判員問題などを理由にした早、慶、明、法、立、教の六大学が一挙に脱退を声明、「東京六大学連盟」を結成した。二リーグ併立は3シーズンも続き、昭和30年6月に話し合いができて再び合流した。すっきりしたと思ったのもつかの間、こんどは昭和31年秋に日独戦の選手選出問題、全日本学生連盟結成促進問題などから早、慶、明、法の四大学が再度脱退して『東京都学生連盟(都学連)』を結成、32年秋には立大も都学連に加わり「東京五大学連盟」が生まれた。しかし、4シーズン後、ようやく両者の和解がなって合併。以後現在まで、順調な発展を見せ、昭和38年春季からは7人制を採用、男子3部、女子1部の大世帯となった。二度にわたる学連分裂騒動については改めて詳細をつづる機会もあると思うが、合併和解に当たっては二度とも関西学連が積極的な働きかけを行ない、仲介の労をとったことを特に記しておこう。15号から連載した「関東学生リーグ篇」は今号を最終回とし、次号からは「国体篇」とします。なお関西学連、全日本学生王座、全日本学生の各篇も後日連載の予定をたてています。

▽**昭和29年春季**

関東学連　①日体大4戦全勝(3シーズンぶり11回目)②芝浦工大3勝1敗③中大2勝2敗④東大1勝3敗、⑤茨城大4戦4敗(1部5校、2部なし)

東京六大学　①教大5戦全勝(初優勝)②早大、明大3勝2敗、④慶大・立大2勝3敗、⑥法大5戦5敗

▽**昭和29年秋季**

関東学連　①日体大4戦全勝(2季連続・12回目)②芝浦工大3勝1敗③中大2勝2敗④茨城大1勝3敗⑤東大4戦4敗

東京六大学　①早大4勝1敗(早明同率—早明の対戦が春12—5、秋9—11合計21—16で早大が上回るため早大初優勝)②明大4勝1敗③教大・慶大3勝2敗⑤立大1勝4敗⑥法大5戦5敗

▽**昭和30年春季**

関東学連　①日体大4戦全勝(3季連続・13回目)②芝浦工大3勝1敗③中大2勝2敗④東大1勝3敗⑤茨城大4戦4敗

東京六大学　①教大・立大4勝1敗(同率優勝教大2シーズンぶり2回目、立大初優勝)③明大3勝2敗④法大2勝3敗⑤慶大・早大1勝4敗

▽**昭和30年秋季**＝両リーグ合併再び一・二部制。関東学院大新加盟。

【一部順位】①日体大5戦全勝(4連勝14回目)②立大4勝1敗③芝浦工大3勝2敗④教大2勝3敗⑥明大1勝4敗⑥法大5戦5敗

【二部順位】①早大初優勝②中大③慶大④東大⑤茨城大⑥関東学院大

▽**昭和31年春季**

【一部順位】①日体大5戦全勝(5連勝15回目)②芝浦工大4勝1敗③立大3勝2敗④教大2勝3敗⑤明大1勝4敗⑥法大5戦5敗

【二部順位】①慶大(2回目)②中大③早大④東大・茨城大・関東学院大

▽**昭和31年秋季**

関東学連　【一部順位】①芝浦工大5戦全勝(初優勝)②日体大4勝1敗③立大3勝2敗④教大2勝3敗。明大、慶大除名

【二部順位】①中大(2回目)②茨城大③防衛大④東大⑤関東学院大。早大、法大除名、

東京都学連　(一カード二回戦制)①慶大6戦全勝(勝点3・初優勝)②明大4勝2敗(勝点2)③法大2勝4敗(勝点1)④早大6敗(勝点0)

▽**東日本学生王座決定戦**(兼学生王座関東代表決定試合・31年12月9日・駒沢)

芝浦工大（関東）19（10―5 / 9―0）5 慶大（都連）

	【慶大】	【芝浦】
GK	石井	今野
FB	中村・古村	高森・大石
HB	野路・杉山・栗原	山岡・浜野・稲生
FW	北川原・谷口・中川・岡田・佐久間	中上・服部・近藤・宮原藤・宮原俊

芝浦工大は第9回東西学生王座決定戦に関東代表として関学と対戦、慶大は同二位対抗戦に出場し同志社大と対戦。

なお、二度の分裂で、両リーグのチームが対戦したのはこの試合と、昭和33年秋、合併のさい、一部校決定をかけて、順天堂（関東）と慶大（五大学）が対戦した2回だけである。

▽**昭和32年春季**＝順天堂大、千葉大が新加盟、東京学芸大が復帰（注・東京学芸大は、旧東京第一師範で、同校は昭和22年秋、一シーズンながら、関東学連に加盟していたもの）。関東学院大不参加。

関東学連

【一部順位】①日体大4戦全勝（2シーズンぶり16回目）②芝浦工大3勝1敗③中大2勝2敗④教大1勝3敗⑤茨城大4戦4敗

（注）芝工大×茨城大戦は39―1で芝工大が勝ち38点差のリーグ新記録。これまでの記録は、戦前の昭和15年秋の日体34―0法大。戦後の昭和24年秋の日体大30―0中大

【二部順位】①防衛大（初優勝）

東京五大学

①明大4戦全勝（初優勝）③慶大・立大2勝2敗⑤早大・法大1勝3敗

▽**昭和32年秋季**

関東学連

【一部順位】①芝浦工大4戦全勝（2回目）②日体大3勝1敗③中大2勝2敗④教大1勝3敗、⑤防衛大4戦4敗

【二部順位】①順天堂大（初優勝）②東大③東京学芸大④茨城大⑤千葉大

東京五大学

①明大3勝1敗（2連勝2回目、早大と同率だが早明戦で明大が勝っているため）②早大3勝1敗③慶大2勝2敗④立大・法大1勝3敗

▽**昭和33年春季**

関東学連

【一部順位】①芝浦工大4戦全勝（2連勝・3回目）②中大3勝1敗③日体大2勝2敗④教大1勝3敗⑤順天堂大4敗

【二部順位】①東大（初優勝）②防衛大③茨城大・東京学芸大・千葉大

東京五大学

①明大3勝1敗（3連勝3回目）早大と同率だが早明戦で明大が勝っているため）②早大3勝1敗③慶大2勝2敗④立大・法大1勝3敗

▽**昭和33年秋季**＝両リーグ合併

再び一・二部制、一部初の八校制

【一部順位】①芝浦工大7勝（3連勝・4回目）②日体大・明大5勝2敗④早大・中大・教大3勝4敗⑦慶大2勝5敗⑧東大7戦7敗

【二部順位】①立大（2回目）②法大③防衛大④順天堂大⑤東京学芸大⑥茨城大⑦千葉大

昭和34年春季以降は、左記のとおり本誌各号に記載されています。

▽昭和34年春季……1号27頁
▽同　秋季……1号27頁
▽昭和35年春季……2号23頁
▽同　秋季……4号20頁
▽昭和36年春季……7号20頁
▽同　秋季……8号20頁
▽昭和37年春季……10号21頁
▽同　秋季……12号20頁
▽昭和38年春季……14号18頁
▽同　秋季……16号26頁
▽昭和39年春季……18号28頁
▽同秋季……19号26頁

（関東学生リーグ篇完）

☆…☆…☆…☆…☆

海外通信

☆…☆…☆…☆…☆

―国際試合成績―

▽1月14日（コペンハーゲン）
デンマーク 12―10 スウェーデン

▽1月15日（コペンハーゲン）
デンマーク 17―17 スウェーデン

▽1月27日（シュツットガルト＝西ドイツ）
西ドイツ 23―14 ユーゴ

▽2月8日（ラエ＝フランス）
フランス 14―12 オランダ

▽2月8日（サンモール＝フランス）
フランスB 21―10 ベルギー

―西ベルリン7人制―

西ベルリン7人制選手権大会は1月4日西ベルリン市で開かれ、ザグレブ（ユーゴスラビア）が優勝した。

西ベルリン（ドイツ） 12―10 チューリッヒ（スイス）
ザグレブ（ユーゴ） 10―8 パリ（フランス）
西ベルリン 15―6 パリ
ザグレブ 14―9 チューリッヒ
チューリッヒ 11―8 パリ
ザグレブ 15―12 西ベルリン

「順位」1.ザグレブ3勝（勝ち点6点）2.西ベルリン2勝1敗（4点）3.チューリッヒ1勝2敗（2点）4.パリ3敗（0点）

地方球界の歩み

北から……南から……⑦

埼玉県（1）

一昨年の国体天皇杯順位で6位昨年は4位と上位入賞を果たしたが、昭和42年の国体開催県ということもあって急に注目されはじめた。突然変異的なと言っては失礼だが、この好成績は大崎電気が男女とも埼玉県にある工場を本拠に登録したからである。県内レベルが急激に上昇したというわけではない。しかし、大崎電気の移籍は県内に大きな刺激となっていることは間違いない。埼玉球界はこれまででどちらかといえば〝女系〟であった。昭和15和大宮高女の奥川真助氏によってまかれたタネは不思議と女子チームばかりに芽ばえた。成均高女、埼玉師範女子などが井田誠三郎、塩沢幹氏らの指導を受けて活動。その年の6月に神宮競技場で行なわれた日独対抗東京大会（日体対在日ドイツ人選抜チーム）の前座試合には、成均高女が招かれて日体女子部と試合をしているほどだ。これ以外は、戦前に記録すべきものはない。戦後は埼玉師範女子がいち早く復活して各大会に出場、第2回関東女子専門学校選手権、第1回関東師範大会、関東女子学生秋季リーグ（以上いずれも昭和22年）などに優勝した。また第2回国体（昭22）にも東日本学生代表（注・当時は学生東西対抗が国体種目に含まれていた）として参加している。

女子の活躍に比べて男子勢は無活動といっていい。わずかに埼玉師範男子部が昭和23年ごろ関東師範大会、東日本選手権などに出場しているにすぎない。しかもせっかく軌道に乗った埼玉師範女子部も学制改革、関東女子学生リーグの解消などで活躍の場を縮少されてしまった。埼玉球界はしばらくブランクとなった。昭和28年2月ようやく県高体連に加盟、同4月に県協会が正式に発足した。創設には井田、親松治郎、井上英雄氏らがほん走したが、戦前から数えて13年を要している。指導者数の不足がこのようなことになったのであろう。

最初の登録チームも圧倒的に高校女子が多く、男子は大宮高一校だけ。最初のゲームも熊谷女高対浦和西高（28年3月）と女子の試合であったのは、いかにも〝女系球界〟らしいではないか。このあと活動は順調に伸びて行く。

（つづく）

岐阜県

昭和14年池上金治氏が出版した「ハンドボール」に記載されていると思うが、ハンドボール普及のため岐阜県東濃地区に行ったとある。岐阜、長野県境に近い現在の恵那市で指導者講習会を開催した。それでも小、中学校の先生二十数人が参加したのが、岐阜県におけるハンドボールの始まり。正式に同氏を招いたのではなく、先生が自から出張されて来たと聞いている。その後戦争が激しくなり、実に九年余も中断の形となった。今から考えると全く惜しい年月であったと痛感する。愛知県に比べて大きく差がついたものもこのへんに起因している。

戦後昭和23年11月3日岐阜県体育大会に初めてハンドボールの種目が認められた。この日に森島茂（教育大出）、横山駿男（早大出）、関谷好安（教育大出）、岩田浩（名工大出）四氏など十数人が初会合してして協会設立を決定した。これらの先輩が古い歴史と地盤をもつ他の球技の中に、敢然とハンドボールのクサビを打ち込まれた熱情と労苦こそ、現在の発展を続ける岐阜県ハンドボールの〝生みの親〟として心から敬意を表したい。幸いに各氏とも県内で活躍され、後輩の歩みにいろいろと指導をされていることに感謝している。昭和24年4月、会長に村上治郎氏（村山病院長）理事長森島茂（現岐阜商高教官）理事に横山駿男（現電通課長）関谷好安（現教育委員会）岩田浩（現共立銀行）の各氏の努力で協会が設立され、同年8月岐阜県最初の公式戦として岐阜クラブ対加納高戦が行なわれた。また同年に第1回全日本総合選手権が一宮市で行なわれて全岐阜が初参加した。昭和25年5月岐阜大学と加納高女子チームが誕生し、8月には岐阜大学が早稲田大の合宿に参加した。

昭和26年には岐阜商業クラブ、本巣高クラブが誕生し、一般チームとして白梅クラブが生まれた。この年に森島理事長が辞任した。横山駿男氏が理事長になった。昭和27年度には全日本総合選手権に岐阜大学が初参加し、加納高が東

海地区代表として国体に初参加した。昭和28年横山氏が理事長を辞任、中坊彦晴氏（日体大出）が就任した。昭和29年には会長村上治郎氏か辞任、後任に菊鶴タビ社長の村山喜一郎が会長に就任。同年かがり火クラブが東海代表として国体に参加、加納高がインターハイに参加した。昭和26年ごろから学校チームの普及養成に重点がおかれ、高校は岡田重博氏（大垣南高教論）久保田勝巍氏（不破高教）らの努力で年々その数を増し、29年ごろから山下孝義氏（現高山教育委員会）安藤多嘉氏（厚八中教論）中野文雄氏（梅林中教論）らが中心となって中学チームの普及発展に全力をつくした。大塚滋治氏（丸魚食堂社長）岩田治三郎氏（アサノセメント勤務）野津義明氏（南濃町役場）らが一般の部の普及に努力した。

昭和28年10月には技術指導のため栗脇嶷氏（現愛知県理事長）の指導を受け、29年11月には日本協会から山田計氏（現大阪府協会）・荒川清美氏（現日体大監督）を招き、審判講習会を開催するなど一歩一歩基盤が固められ、進歩の足跡を残した。かくして設立数年にして各チームが国体、インターハイなど全国的の大会に参加するようになった。岐阜県ハンドボールはこれらの諸先輩の努力によってりっぱに実ったのである。

ナショナルチームの編成を　ぜひ！強化合宿を

私の提案

日本協会は2月22日に39年度の優秀選手（一般男女各15人）を発表したが、これを読んで気のついたことがある。それを私は提案します。

（1）ことしから国際試合が多くなる。このさい、ぜひとも全日本チーム、つまりナショナル・チームを編成してもらいたい。国内における国際試合はもちろんのこと、海外遠征にもこのナショナル・チームを起用すべきだ。協会の最高首脳部が優秀選手を選出したのだから、そのくらいのことはやってほしい。ただ優秀選手を選出しただけで、あとは〝知らぬ顔の半兵衛〟では無責任すぎはしまいか。どこへ出してもオカシクないナショナル・チームを編成するだけの努力をしてもらえないものだろう。少なくても国内における国際試合にはナショナル・チームとの試合をやるべきだと思う。

（2）男子チームの中国遠征には優秀選手15人が中心になるという。これは結構なことだ。二、三の変動は仕方ないとしても、これだけのメンバーは今までに見たこともない強力なものと思っている。昨年のヨーロッパ遠征のとき、ヨーロッパ・チームのロングシュートに苦しめられた。優秀選手の中にはロングシュータが多くて、実にたのもしい。竹野（大崎電気）をはじめ安達（全立大）、北井（教大）、奥野（同志社大）、江名（全立大）、木野（全立大）森田（芝浦工大）がそれである。これは日本ハンドボール界が首を長くして待っていた夢のチームである。このメンバーで国際試合にのぞんだら、優秀な成績をあげられる。そこで注文する。このメンバーを「宝の持ちぐされ」にしないように、年に二、三度の強化合宿は必要だ。ロングは打てても、コンビネーションがとれなくては意味がない。ぜひ強化合宿を実行してもらいたい。これが日本チームを強くする近道である。

（鷲尾武治）

○—○—○—○—○
恋のハンドボール 発売
○—○—○—○—○

東芝では教材用レコードとして「恋のハンドボール」を2月15日全国に売り出した。歌手は望月浩君で東京・高輪商高ハンドボール部のレギュラー。17歳、4月には3年生になる。作詞は秋元近史氏、作曲は津野陽二、編曲は宮川泰氏。

趣味は小さな置き物を集めることで、特技はハンドボールと野球。173センチ、65キロ。住所は東京都大田区上池上924。39年5月にNETの「ホイホイ・ミュージック・スクール」で合格した。

1.
あふれる若さが
グラウンドにきょうも
ボールがはずむよ
青春の夢のせて
君から僕へ　僕から君へ
いつも見てる　あの娘に
とどけよ若い声
あー恋のハンドボール

○東京都協会告知板

◎常任理事会議事録

▽日　時　昭和40年2月22日
▽場　所　大崎電気工業株式会社
▽出席者　渡辺、外山、吉田（委任）、鴛尾、安藤純、安藤重、岡村、中沢（委任）
▽欠席者　鈴木、山岡憲、古賀、山岡二、宮田、佐野

(1)　全国評議員会提出議案の件
渡辺会長から1月20日付けの要望事項、2月1日付けの日本協会規約の一部改正についての公文書を発送したむね報告があり、次いで提案趣旨の説明があった。とくに第14条の「会長、副会長は評議員会において推薦する」とあるのを「会長、副会長、理事、監事は評議員会で選出する」と改正してほしいむね、具体的に説明した。

(2)　40年度の予算編成の件
外山理事長に一任。

(3)　都協会規約作製の件
従来は旧都連盟の規約を運用してきたが、都協会の陣容が一新したので、新しい規約作製を決めた。原案は各常任理事に配布、継続審議とした。

(4)　都選手権大会日程の件
11月20日から23日東京体育館で行なう予定だったが、11月18日から21日までとした。これは11月21日を関東学生軟式庭球連盟が使用することになっていたものを、都協会から申し入れて23日と替わってもらったもの。

(5)　駒沢体育施設利用申し込み、同説明会の件
日本協会からの依頼で40年度駒沢体育施設の利用日数をまとめ、2月24日に駒沢オリンピック施設事務所に郵送した。なお3月2日の説明会には日本協会の希望で中沢重夫常任理事を出席させることにした。

(6)　都体協選手強化、都体協加盟団体幹部中央研修会の件
選手強化については大崎電気男女チーム（計18人）の健康診断書強化合宿計画書をまとめて都体協に提出。中央研修会には明星高校の高橋英次氏を推薦、同氏は2月26日から27日にかけ神奈川県藤沢市江ノ島で開かれた研修会に出席した。

(7)　東京—神奈川対抗戦の件
昨年まで高体連のみで実施してきたが、両都県協会が主催すべき性格のものであることに意見が一致、この対抗戦開催を正式に決めた。近く神奈川県協会関係者と接衝する。

(8)　全日本実業団連盟結成の件
渡辺会長から「2月6日大阪府立体育会館で開かれた全日本実業団連盟設立準備委員会に、私は大崎電気工業の社長として出席した。連盟は発足したが、規約作製について私に一任された」と報告。この会議に千代田印刷機専務の古賀健一郎氏（都協会理事）も出席した。

(9)　関東実業団リーグの件
渡辺会長から「東京都には実業団チームが多いので、関東実業団リーグを開きたい。近く各関係会社の社長と協議する」と説明があった。

◇　◇　◇

東京都ハンドボール協会規約抜萃

第一章　総　則

第一条（名称）当協会は東京都ハンドボール協会という。

第二条（事務所）当協会は事務所を東京都品川区五反田一ノ二六三、大崎電気工業株式会社に置く。

第四条（目的と事業）当協会は日本ハンドボール界発展のために日本ハンドボール協会に協力し加盟チームの育成強化を目的とする。さらに事業として東京都選手権大会など各種の大会を開催する。

第二章　役　員

第五条（役員）当協会に次の役員を置く。会長一名、副会長若干名、理事長一名、副理事長二名常任理事若干名。理事若干名。

第六条（会長、副会長）会長副会長は常任理事会で推薦する。会長は当協会を代表、統括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

第七条（理事長、副理事長）理事長、副理事長は理事の互選によって決め、理事長は会務全般を統括する。副理事長は理事長を補佐し、理事長事故あるときはその職務を代行する。

第八条（常任理事）常任理事は理事の互選によって決める。

第三章　機　関

第十一条（機関）当協会は次の機関を置く。(1)常任理事会(2)理事会(3)専門委員会

第四章　議　事

第十四条（権限）常任理事会に付議される事項は次のとおり。(1)予算の審議(2)決算の承認(3)事業計画(4)規約の改廃(5)役員の承認または決定(6)その他の重要なる事項

第十五条（議事）常任理事会の成立は常任理事の過半数（委任を含む）の出席を必要とする。議事は出席者の過半数で決定する。会議の議長には会長が当たる。

第十六条（部外者の出席）会長が必要と認めた場合には、当協会の役員でない部外者でも常任理事会に出席し、意見を述べることができる。

第五章　経　費

第十七条（経費）当協会の経費は次のものを当てる(1)加盟チームの登録料(2)事業収益金(3)寄付金および補助金(4)その他の収入

第十八条（登録料）当協会加盟チームの登録料は常任理事会で決める。

第十九条（補助）当協会の加盟団体（東京都実業団連盟、東京都学連、東京都高体連、東京都中体連）に補助金を出すことができる。ただしその額は常任理事会で決める。

第二十三条（施行期日）本規約は昭和四十年四月一日から効力を生じる。

地方だより

39年11月

北信越で氷見ク快勝

▽第3回北信越選手権（39年11月22日、富山市体育館）

「男子リーグ」

富山大（富山） 23（12―9 11―8）17 県工ク（石川）
氷見ク（前年優） 35（16―4 19―10）14 県工ク
氷見ク 35（17―9 18―11）20 富山大

【順位】①氷見ク2戦全勝②富山大1勝1敗③県工ク2敗

涌谷高強し

▽第8回宮城県室内選手権（39年11月、東北大中央体育館）

「男子準決勝」

東北学院大OB 13―8 東北大
仙台一高B 18―8 仙台二高A

「同決勝」

東北学院大OB 21（10―4 11―7）11 仙台一高B

「女子準決勝」

涌谷高A 15―2 宮城二女高
涌谷高B 10―7 宮城三女高

「同決勝」

涌谷高A 18（8―4 10―3）7 涌谷高B

鹿児島工、鹿大を破る

▽第6回鹿児島県秋季選手権（39年11月21日、22日鹿児島）

「男子準決勝」

鹿児島大 24―9 加治木高
鹿児島工高 15―10 甲南高

「同決勝」

鹿児島工高 13（4―4 9―6）10 鹿児島大

「女子決勝」

加治木高 13（8―1 5―3）4 横川ク

男女とも第一中が優勝

▽第3回柏崎刈羽中学校大会（39年11月22日、柏崎一中）

「男子一回戦」

第一 25―2 第三
荒浜 9―6 第二
北鯖石 17―7 西中通

「準決勝」

第一 10―7 内郷
荒浜 13―7 北鯖石

「決勝」

第一 15―6 荒浜

「女子決勝」

第一 9―2 第二

柏崎中学大会から

三重は実業団が制勝

▽三重県総合選手権（39年11月、津市）

「男子準決勝」

鵜の森ク 14―10 四日市工高B
本田技研 16―9 津工高

「同決勝」

本田技研 23―11 鵜の森ク

「女子準決勝」

田村紡 34―2 四日市商高
津女高 12―5 松阪女高

「同決勝」

田村紡 20―2 津女高

静岡はクラブチーム

▽第11回静岡県総合選手権（39年11月、沼津市）

「男子準決勝」

清商ク 13―12 清港ドック
香陵クA 7―4 日野自動車

「同決勝」

清商ク 12（6―6 6―5）11 香陵クA

「女子準決勝」

城北ク 21―6 沼津女商高
静岡城北高 14―0 清商ク女子

「同決勝」

城北ク 16（6―1 10―6）7 静岡城北高

39年12月

▽第4回山口県一般男子室内選手権（39年12月20日、山口県立体育館）

「一回戦」

下関ク 23―10 武田薬品
山口大 14―11 徳山のんたクラブ
県教員団 不戦勝 出光興産
徳山クラブ 15―10 山口大学工学部

「準決勝」

下関ク 21―11 山口大
県教員団 18―18 抽選勝ち 徳山クラブ

「決勝」

下関ク 19（10―5 9―8）13 県教員団

下関クの2連勝、「年次優勝」第1回、第2回下松ク、第3回、第4回下関ク。

早大が4連勝

▽第4回早慶明三大学定期戦（12月12日、早大記念会堂）

早大 18（7―7 11―10）17 慶大
明大 22（12―5 10―10）15 慶大
早大 19（9―8 10―10）18 明大

40年1月

大阪イーグルス優勝

▽大阪府室内選手権（40年1月10日、15日、大阪府立体育会館）

「一回戦」

桃山大ク 44―11 大阪体育会
関西球友会 33―13 丸紅飯田
大阪イーグルス 36―24 松ケ枝ク
宗形製作所 25―21 美津濃
佐野工ク 26―21 春日丘ク
大阪府大 33―6 西野田工ク
関学ク 25―13 承風ク
三国丘ク 19―16 桃山大

「準々決勝」

関西球友会 17―13 桃山大ク
大阪イーグルス 16―7 宗形製作所
佐野工ク 24―17 大阪府大
関学ク 23―19 三国丘ク

「準決勝」

大阪イーグルス 25―20 関西球友会
佐野工ク 20―13 関学ク

「決勝」

大阪イーグルス 33（13―7 20―12）19 佐野工ク

宗形製作優勝

▽第3回大阪実業団リーグ戦（1月、大阪）

宗形製作 25―21 美津濃
丸紅飯田 20―15 交通公社
大阪ガス 25―21 交通公社
宗形製作 27―9 丸紅飯田
美津濃 35―13 交通公社

美津濃 22—9 大阪ガス
美津濃 18—4 丸紅飯田
宗形製作 不戦勝 交通公社
大阪ガス 17—11 丸紅飯田
宗形製作 26—6 大阪ガス

【順位】①宗形製作4勝②美津濃3勝1敗③大阪ガス2勝2敗④丸紅飯田1勝3敗⑤交通公社4敗

桜台、半田健在

▽愛知県高校室内選手権（1月16日、名古屋）

〔男子準決勝〕
桜台 19—8 時修館
名城大附属 12—11 中京商

〔同決勝〕
桜台 18（12—4 6—7）11 名城大附属

〔女子準決勝〕
一宮 8—4 稲沢
半田 11—5 名女商

〔同決勝〕
半田 12（5—1 7—7）8 一宮

実業団は三菱重工

▽第5回愛知県実業団選手権（1月31日、名古屋）

〔準決勝〕
蒲郡市役所 28（10—3 18—1）4 ブラザーミシン
三菱重工 棄権 タヨシ産業

〔決勝〕
三菱重工 14（5—4 9—7）11 蒲郡市役所

G・T・C 敗れる

▽第6回岐阜県総合選手権（1月16、17日、大垣市）

〔男子準決勝〕
常盤工業 18—11 USN
G・T・C 25—6 大垣農高

〔同決勝〕
常盤工業 18（5—4 13—4）8 G・T・C

〔女子準決勝〕
加納高 11—6 大垣南高
揖斐川電工 17—0 近江絹糸

〔同決勝〕
揖斐川電工 7（4—5 2—1 1—1 0—0）7 加納高
抽選で揖斐川電工優勝

金沢で実業団対抗

▽第1回金沢市実業団大会（1月17日、金沢）

〔ダブルヘッダー第一試合〕
石川製作所 14（5—4 9—6）10 金沢市役所

〔同 第二試合〕
石川製作所 10（6—3 4—7）10 金沢市役所

明星、桜水商が優勝

◇第3回東京都高校室内選手権大会（1月24日—2月7日駒沢）

「男子」

▽一回戦
学大付 21—18 鷺宮
一商 33—6 三商
世田谷工 18—18 羽田工（抽選勝ち）
中大付 24—7 桜水商
広尾 17—7 玉川
帝京商工 18—15 五商
明星 34—10 農業
神代 28—6 城南
赤羽商 15—11 北多摩
早大学院 21—11 明正
関東 21—11 両国
墨田川 12—11 府中工
京橋商 18—4 四谷商
府中 30—8 小岩
二商 19—15 東京実業

▽二回戦
学大付 35—10 駿台学園
一商 23—23 世田谷工（抽選勝ち）
中大付 32—10 広尾
明星 27—4 帝京商工
神代 13—7 赤羽商
関東 24—11 早大学院
墨田川 21—9 京橋商
府中 15—11 二商

▽準々決勝
一商 30—14 学大付
明星 11—7 中大付
神代 20—13 関東
墨田川 21—14 府中

▽準決勝
明星 15（4—1 11—7）8 一商
神代 18（7—3 11—7）10 墨田川

▽三位決定戦
墨田川 19（13—6 6—9）15 一商

▽決勝
明星 13（4—4 9—3）7 神代

「女子」

▽一回戦
小平 26—0 小岩
墨田川 6—3 四谷商
桜水商 17—2 北多摩
井草 11—10 園芸
佼成女子 11—5 二商
白鷗 12—8 菊華
神代 13—8 府中
両国 19—3 五商

▽準々決勝
小平 14—1 墨田川
桜水商 18—1 井草
佼成女子 12—10 白鷗
神代 11—8 両国

▽準決勝
桜水商 11（5—6 6—3）9 小平
佼成女子 17（8—6 9—3）9 神代

▽三位決定戦
神代 9（4—6 5—2）8 小平

▽決勝
桜水商 15（5—3 10—7）10 佼成女子

◇　◇　◇　◇

編集後記

▽…39年度最後の号をお届けする。19号を発行して1カ月後だっただけに、編集子もなかなかいそがしかった。40年度からいよいよ月刊となる。おそらく目が回るのではないだろうか。考えただけでもゾーっとする。スタッフの気持ちがピッタリと合うように心がけます。どうぞ絶大なご声援を…。

▽…本号からヨーロッパのニュースをお知らせすることにした。日本のハンドボールが大きく飛躍するためには、ヨーロッパのハンドボールをよく知っておかねばならい。このため西ドイツのハンドボール週刊誌を翻訳、西ドイツのニュースを諸兄姉に読んでいただくことにした。この翻訳は一昨年ヨーロッパへ行つた藤本強君（東大OB）にお願いした。またフランスのニュースは私（ふぐ＝編集後記担当者）がフランスのスポーツ紙レキップ紙から必要なものを抜すいして掲載することにした。西ドイツ、フランスのほかに、ソ連、チェコ、ルーマニア、スウェーデンのニュースも考えています。

▽…本誌が発行されるころは、日中交流による日本の中国遠征チームが最後の合宿にはいっていることでしょう。中国はかなり強いときいている。よい成績をあげてくることを祈るのみ。

▽…全国評議員会で決まった事項は次号（21号）にくわしく掲載します。

（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第二十号
昭和四十年三月十五日
昭和四十年三月二十日
所
ドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話大代表(467)三一一一 振替
九八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価 百三十円
(〒) 二十円